

## 参考資料

- 1 筆者の主な年表
- 2 唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の10年の歩み
- 3 姪浜プロジェクト48 (MPT48)  
～筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に取り組んだ多彩な活動～
- 4 進行形！景観まちづくり  
～歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり～  
(月刊「地方自治職員研修」2015年1月号)
- 5 地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～  
(日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号)
- 6 内陸部のまち・横手市増田と海辺のまち・福岡市姪浜  
～日本海を隔てて1100km離れた地域の新たな交流の芽生え～  
(2013年 第9回JTB交流文化賞応募作品)
- 7 熊本地震と私～オオクワガタから始まった旅は復興へと向かう旅へ～  
(2016年 第12回JTB交流文化賞応募作品)

(公財) 福岡アジア都市研究所 会員研究員 (福岡市職員)  
唐津街道姪浜まちづくり協議会 初代事務局長  
大塚政徳

# 筆者の主な年表

	年齢	主な出来事		印象に残る建築物、町並み等				
		家庭・学校・仕事	建築・まちづくり	現代建築	歴史的建造物・町並み・集落	海外訪問都市		
子ども時代	0	S33 誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実家の思い出</li> <li>■国鉄キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」</li> <li>■テレビ紀行番組「遠くへ行きたい」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大阪万博の建築物</li> <li>■丹下健三(国立代々木競技場)</li> <li>■前川國男(東京海上ビル)※美観論争</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■寺社(法隆寺、東大寺)</li> <li>■城郭(会津若松城)</li> <li>■伝統的町並み(妻籠宿、倉敷、萩)</li> </ul>			
熊本大学時代	18	S51 熊本大学建築学科入学	<ul style="list-style-type: none"> <li>■建築との出会い</li> <li>■最初の設計、楽しい設計課題</li> <li>■建築への興味、建築巡り</li> <li>■木島安史先生</li> <li>■山口百恵「いい日旅立ち」(国鉄キャンペーン)</li> <li>■卒業論文(三角西港)</li> <li>■卒業設計(Architectural Complex)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■磯崎新(福岡相互銀行本店)</li> <li>■黒川紀章(福岡銀行本店)</li> <li>■白井晟一(親和銀行本店)</li> <li>■木島安史(上無田松尾神社)</li> <li>■フランク・ロイド・ライト(旧帝国ホテル)</li> <li>■住宅建築(清家清、篠原一男、吉村順三、菊竹清訓、宮脇壇、安藤忠雄)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■城郭(熊本城)</li> <li>■近代建築(熊本地方裁判所、弧風院)</li> <li>■港・都市計画(三角西港)</li> <li>■伝統的町並み(日南市飴肥)</li> </ul>			
	22	S55 熊本大学卒業			<ul style="list-style-type: none"> <li>■寺社等(桂離宮、修学院離宮、三十三間堂、清水寺、銀閣寺、龍安寺、円通寺、詩仙堂、平等院鳳凰堂、法隆寺、唐招提寺、東大寺、薬師寺、室生寺、日光東照宮、伊勢神宮、鎌倉円覚寺舍利殿、金沢尾山神社神門)</li> <li>■近代建築(京都中京郵便局、東京駅、迎賓館赤坂離宮)</li> <li>■伝統的町並み(川越、栃木、金沢、倉敷、奈良今井町、日南市飴肥)</li> </ul>			
鴻池組時代	22	S55 鴻池組入社(東京本店設計部) 寮生活とコンペ 現場配属 荒川区町屋での生活と篠田さん 最後の現場	<ul style="list-style-type: none"> <li>■建築巡り</li> <li>■歴史的建造物への興味</li> <li>■歴史的町並みへの興味</li> <li>■東京から福岡へ</li> <li>■最初の海外旅行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■村野藤吾(小山敬三美術館、ハケ岳美術館)</li> <li>■内井昭蔵(桜台コートビレッジ、久遠寺宝蔵)</li> <li>■白井晟一(芹沢銈介美術館)</li> <li>■山下和正(フロム・ファースト・ビル)</li> <li>■榎文彦(代官山プロジェクト)</li> <li>■磯崎新(群馬県立近代美術館)</li> </ul>				
	28	S61 鴻池組退社						
福岡市役所時代	協議会活動以前	28	S61 福岡市での生活スタート 福岡市役所入庁、住宅公社配属	<ul style="list-style-type: none"> <li>■シーサイドももちクリスタージュ</li> <li>■シーサイドももち景観形成地区の指定</li> <li>■御供所景観形成地区の指定</li> <li>■御供所・瀧田喜代三さん</li> <li>■海外派遣研修</li> <li>■研究「地下空間」「広域連携」、海外調査</li> <li>■都心部景観、広告付きバスシェルター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■木島安史(球泉洞森林館)</li> <li>■安藤忠雄(サントリーミュージアム天保山、熊本県立装飾古墳館、兵庫県立こどもの館)</li> <li>■伊東豊雄(八代市立発物館)</li> <li>■坂倉準三(神奈川県立近代美術館)</li> <li>■レム・コールハウス(香椎ネクサスワールド、アムステルダム集合住宅)</li> <li>■アントニオ・ガウディ(サグラダ・ファミリア)</li> <li>■イオ・ミン・ペイ(ルーブル・ピラミッド)</li> <li>■ジャン・ヌーベル(アラブ世界研究所)</li> <li>■ガエ・アウレンティ(オルセー美術館)</li> <li>■ミス・ファン・デル・ローエ(ハルセロナ・パビリオン)</li> <li>■ヨーロッパの現代建築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■寺社等(桂離宮、修学院離宮、清水寺)</li> <li>■城郭(姫路城、松本城、犬山城、五稜郭)</li> <li>■教会(崎津教会、大江教会)</li> <li>■近代建築(ヨーロッパの近代建築、旧開智学校)</li> <li>■ニュータウン(幕張、多摩、六甲)</li> <li>■アーバンデザイン(横浜、神戸、パリ、ベルリン、シュトゥットガルト、バルセロナ)</li> <li>■国際建築展(ベルリン、シュトゥットガルト)</li> <li>■地域づくり(小布施、京都西陣)</li> <li>■伝統的町並み(小樽、函館、角館、栃木、川越、金沢、松本、飛騨高山、須坂、彦根、長浜、京都、奈良、富田林、神戸、出石、知覧)</li> <li>■ヨーロッパの街並み・集落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ドイツ(ハイデルベルク、ローテンブルク、フランクフルト、ベルリン、シュトゥットガルト、ケルン、ハノーバー)</li> <li>■オーストリア(ウィーン)</li> <li>■イタリア(ローマ、ベネチア)</li> <li>■スイス(インターラーケン、ユングフラウ)</li> <li>■イギリス(ロンドン、エジンバラ、ストラトフォード・アポン・エイボン、コッツウォルズ)</li> <li>■スペイン(バルセロナ)</li> <li>■フランス(パリ)</li> <li>■オランダ(アムステルダム、ユトレヒト)</li> <li>■韓国(釜山、ソウル、金海)</li> </ul>	
		29	S62 結婚					
		30	S63 長女誕生					
	協議会活動中	36	H5 都市景観室配属 H6 長男誕生					
		49	H12 福岡都市科学研究所配属 H18 都市景観室配属					
協議会卒業後	58	H21 都市計画課配属 H22 企画・耐震推進課配属(耐震)	<p>H19.3 唐津街道姪浜まちづくり協議会設立</p> <p>●事務局長として、各ステージの地域課題に対応した多彩な活動を企画・実践し、多くの成果を上げる。姪浜及び協議会の名前を全国に発信してきた。</p> <p>○1stステージ(H19～21年度) ○2ndステージ(H22～25年度) ○3rdステージ(H26～27年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ル・コルビュジェ(国立西洋美術館)</li> <li>■前川國男(東京文化会館)</li> <li>■伊東豊雄(せんたいメディアパーク)</li> <li>■隈研吾(アオーレ長岡、長崎県立美術館、浅草文化観光センター)</li> <li>■榎文彦(代官山プロジェクト)</li> <li>■アストリッド・クライン(代官山蔦屋書店)</li> <li>■安藤忠雄(表参道ヒルズ、秋田県立美術館)</li> <li>■山下和正(フロム・ファースト・ビル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■寺社(会津さざえ堂、阿蘇神社)</li> <li>■城郭(会津若松城、熊本城、首里城)</li> <li>■教会(大浦天主堂)</li> <li>■近代建築(東京駅、武雄温泉楼門、八千代座、旧岩崎久彌邸、旧グラバー住宅、旧唐津銀行、旧高取邸、長崎次郎書店)</li> <li>■産業遺産(軍艦島)</li> <li>■伝統的町並み(角館、横手増田、会津若松、喜多方、大内宿、川越、長岡、村上、倉敷、高梁、木屋瀬、八女、吉井、内野、大川、塩田、鹿島、島原、雲仙、杵築、臼杵、山鹿、那覇)</li> </ul>			
	58	H27 建築物安全推進課配属(空家、耐震)	<p>H28.5 唐津街道姪浜まちづくり協議会卒業</p> <p>H28.6～ 地域づくりを巡る小さなまち旅 思い出の場所再訪 熊本地震と私 これまでの活動の振り返り 姪浜や市役所での経験を活かして 活動記録作成(H29.3完成)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■坂茂(大分県立美術館)</li> <li>■隈研吾(根津美術館、サントリー美術館)</li> <li>■磯崎新(北九州市立中央図書館)</li> <li>■黒川紀章(国立新美術館)</li> <li>■代官山、表参道、銀座等の現代建築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教会(出津教会、崎津教会、大江教会)</li> <li>■近代建築(弧風院)</li> <li>■港・都市計画(三角西港)</li> <li>■集落(波佐見、出津、崎津)</li> <li>■熊本地震被害(熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋、益城町、南阿蘇村)</li> </ul>			

※活動記録に関するものを中心に記載。市役所の配属先は、主なものを記載。

# 唐津街道姪浜まちづくり協議会と筆者の10年の歩み

年度 ステージ	活動の目標	各活動の開始年度			助成金（補助金）	表彰、認定
		イベント関連	計画策定、情報発信等	関連事業		
H18年度	設立準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>『博多津にぎわい復興計画研究会』として、講演会、まち歩き、姪浜での調査を実施。</li> <li>H19.3.17の姪浜でのまち歩きイベント後に協議会設立を決定。</li> <li>H19.3.26『唐津街道姪浜町並み・まちづくり活性化協議会』として福岡市役所有志を中心に設立。以降、地元メンバーを加える。H20.4.1に現在の『唐津街道姪浜まちづくり協議会』に名称変更。</li> </ul>				
H19年度	1st ステージ 地域の魅力の再認識と地域内外への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり講演会・シンポジウム</li> <li>景観歴史発掘ガイドツアー</li> <li>みそ蔵コンサート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例会</li> <li>地域の魅力資源調査</li> <li>地域の魅力資源集作成</li> <li>まち歩きマップの発行（順次改訂）</li> </ul>		●西区やる気応援事業補助金（福岡市）	
H20年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなみパネル展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり先進都市調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『西区まるごと博物館』への参加</li> <li>『唐津街道サミット』への加盟</li> </ul>	●西区やる気応援事業補助金（福岡市）	
H21年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>灯明コンサート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町家再生の実践</li> <li>まちの案内所開設（マイヅル味噌内）</li> <li>旧町名表示板設置</li> </ul>		●西区やる気応援事業補助金（福岡市） ●農業・地域協同活動支援基金（JA福岡市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農業・地域協同活動支援表彰（JA福岡市）</li> <li>◆福岡市都市景観賞（福岡市）</li> <li>◆ふくおか地域づくり活動賞（地域づくりネットワーク福岡県協議会）</li> <li>◆景観づくり地域団体認定（福岡市）</li> </ul>
H22年度	2nd ステージ 地域協働のまちづくり計画の策定 景観まちづくりの実践		<ul style="list-style-type: none"> <li>『元気！姪浜計画』の策定</li> <li>かわら版の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州大学『都市・建築ワークショップ』への協力</li> </ul>	●景観づくり地域団体活動助成金（福岡市） ●住まい・まちづくり担い手事業助成金（住まい・まちづくり担い手支援機構）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆西区の宝認定（西区まるごと博物館推進会）</li> <li>◆ふくおか地域づくり活動賞（地域づくりネットワーク福岡県協議会）</li> </ul>
H23年度			<ul style="list-style-type: none"> <li>景観づくり委員会設立</li> <li>『姪浜ブランド』の認定</li> <li>『景観づくり計画』STEP1の策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『地域づくりネットワーク福岡県協議会』への加盟</li> </ul>	●景観づくり地域団体活動助成金（福岡市）	◆ふくおか地域づくり活動賞奨励賞（地域づくりネットワーク福岡県協議会）
H24年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き</li> <li>町家コンサート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『姪浜町家』の認定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学習への協力（姪北小）</li> <li>『全国まちなみゼミ福岡大会』参加</li> </ul>	●URCAまちづくり企画支援事業助成金（再開発コーディネーター協会） ●まちづくり人応援助成金（まちづくり市民財団）	◆まちづくり人認定（まちづくり市民財団）
H25年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>登録文化財みそ蔵 特別公開</li> <li>子どもまちなみ探検隊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『景観づくり計画』STEP2の策定</li> <li>子ども落書き消し隊</li> <li>『姪浜景観まちづくり宣言』の作成</li> <li>地域の方から『姪浜相撲甚句』『史跡巡りの歌』の贈呈</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『まちなみネットワーク福岡』への加盟。第1回まちなみフォーラム福岡を姪浜で開催</li> <li>『福岡県美しいまちづくり協議会』への加盟</li> </ul>	●街なか再生助成金（区画整理促進機構） ●ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金（福岡県）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福岡県共助社会づくり表彰協働部門賞（福岡県）</li> <li>◆日本まちづくり大賞及び福岡支部賞（NPO福岡都市計画家協会）</li> <li>◆あしたのまち・くらしづくり活動賞振興奨励賞（あしたの日本を創る協会）</li> </ul>
H26年度	3rd ステージ 登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築 次のステージに向けた『姪浜ネクスト』の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>海からまちを眺める遊覧船ツアー</li> <li>みそ蔵の再生・活用に向けた活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『姪浜景観づくりの手引き』の発行</li> </ul>		●ふくおか地域貢献活動サポート事業補助金（福岡県） ●公益信託 大成建設自然・歴史環境基金（H26.12～H27.11）	◆まちづくり優秀賞（日本建築士会連合会）
H27年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなまち旅プロジェクトの発掘・夏休み親子まちなみ探検隊</li> <li>遊覧船から見る花火大会</li> <li>寺社講話&amp;紅葉巡りツアー</li> <li>白うさぎ伝説と桜の名所巡り&amp;姪浜ブランド店巡り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『みそ蔵活用計画』の策定</li> <li>姪浜ネクストの推進（TEAM姪浜ネクスト発足）</li> <li>新案内所の移転、改修</li> <li>『姪浜まち旅プロジェクト計画』の策定</li> <li>まち歩きマップの改訂（来訪者、店舗、姪浜地域、協議会のWin-Win-Win方式）</li> <li>街なか再生助成金の活用企画（ニュースレターの発行、暖簾による修景事業等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合学習への協力拡大（姪浜小、愛宕小）</li> </ul>	●まちづくり人応援助成金（まちづくり地球市民財団）  ●街なか再生助成金（区画整理促進機構。H28.2～12）	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆都市景観大賞 景観教育・普及啓発部門大賞（国土交通大臣賞）</li> <li>◆ふるさとづくり大賞団体表彰（総務省）</li> </ul>
H28年度	<p>初代事務局長として、精力的に様々な活動を企画・実践し、多くの成果を残す。H28.5.31次のステップアップを図るため、10年という節目を機会に協議会を卒業。地域内外の皆さま、長い間のご支援ありがとうございました。</p>					参考2

## 姪浜プロジェクト 48 (MPT48)

### ～筆者が唐津街道姪浜まちづくり協議会在籍中に取り組んだ多彩な活動～

ここでは、初代事務局長の筆者が中心となって企画・実践してきた多彩な活動『姪浜プロジェクト 48』を紹介する。一つひとつの活動は、オーソドックスなものであるが、まちづくりの熟度に応じた多彩な活動を展開してきた。「こだわり」「おもてなし」「多彩」「粘り強さ」「地道」をテーマにした 10 年間の精力的な活動により、姪浜の魅力及び協議会の活動を全国に発信してきた。

#### 【活動概要】

##### ◆ 1st ステージ（主に平成 19 年度～21 年度）

『地域の魅力の再認識と地域内外への発信』を目標に、「まち歩きマップやかわら版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」などによる姪浜の見どころ・活動の情報提供や、「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」などの多彩な町並みイベントを実施してきた。

##### ◆ 2nd ステージ（主に平成 22 年度～25 年度）

『地域協働のまちづくり計画の策定及び景観まちづくりの実践』を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画」や「景観づくり計画」の策定を行うとともに、「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドの認定」「姪浜町家の認定」などの具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えてきた。

また、「子どもまちなみ探検隊」や「子ども落書き消し隊」などの次の世代を担う子どもたちを対象にした景観づくり普及活動にも取り組んできた。

##### ◆ 3rd ステージ（主に平成 26 年度～27 年度）

『国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築』を目標に、「姪浜景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに、平成 25 年末に味噌の製造場としての約 1 世紀の役割を終えて閉店したマイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開してきた。

最近では、姪浜の次のまちづくりのステージ「姪浜ネクストの推進」に向けた活動や、多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」を展開中であった。

#### 【活動内容一覧】

段階	活動内容	活動開始年度
1 s t ス テ ー ジ	(1)定例会	H19 年度
	(2)地域の魅力資源調査	H19 年度
	(3)地域の魅力資源集の作成	H19 年度
	(4)まち歩きマップの作成・発行	H19 年度
	(5)まちづくり講演会・シンポジウム	H19 年度
	(6)登録文化財の登録への協力	H19 年度
	(7)景観歴史発掘ガイドツアー	H19 年度
	(8)みそ蔵コンサート	H19 年度

1 s t e r e o t y p e	(9)版画展・町家展	H19 年度
	(10)先進都市調査	H20 年度
	(11)まちなみパネル展	H20 年度
	(12)他団体との交流・連携活動	H20 年度
	(13)マスコミへの情報発信	H20 年度
	(14)町家再生の実践	H21 年度
	(15)灯明コンサート	H21 年度
	(16)旧町名表示板の設置	H21 年度
	(17)まちづくり活動拠点(まちの案内所)の開設・運営	H21 年度
	(18)姪浜の食材を使った料理でのおもてなし	H21 年度
2 n d s t e r e o t y p e	(19)景観づくり地域団体の認定	H21 年度
	(20)全国区の助成金へのチャレンジ	H22 年度
	(21)地域との交流会	H22 年度
	(22)九州大学との連携(都市・建築ワークショップ等)	H22 年度
	(23)様々な場面での姪浜の PR	H22 年度
	(24)視察受入&意見交換	H22 年度
	(25)かわら版の発行	H22 年度
	(26)まちづくり計画策定ワークショップ	H22 年度
	(27)「元気! 姪浜計画」の策定	H22 年度
	(28)女性部会「はまこみち」の発足・活動	H23 年度
	(29)「姪浜ブランド」の認定	H23 年度
	(30)「姪浜ブランド」の PR	H23 年度
	(31)景観づくり委員会	H23 年度
	(32)「景観づくり計画」の策定	H23 年度
	(33)「姪浜町家」の認定	H23 年度
	(34)ディスカバー姪浜展を主体としたウィークリー事業	H24 年度
	(35)町家活用イベント(姪浜シネマ、町家コンサート)	H24 年度
	(36)着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き	H24 年度
	(37)まちなみネットワーク活動	H24 年度
	(38)地域のシンボルであるみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動	H25 年度
(39)子どもたちを対象にした景観づくり普及活動	H25 年度	
(40)全国区の賞へのチャレンジ	H25 年度	
(41)地域からの贈り物	H25 年度	
(42)景観まちづくり宣言	H25 年度	
3 r d s t e r e o t y p e	(43)「景観づくりの手引き」の作成	H26 年度
	(44)海を意識したプロジェクト(遊覧船等)	H26 年度
	(45)「TEAM 姪浜ネクスト」の推進	H26 年度
	(46)win-win-win 方式によるまち歩きマップの作成・発行	H27 年度
	(47)ポストみそ蔵としての「まち旅プロジェクト計画」の策定	H27 年度
	(48)空き店舗を活用した新案内所の開設	H27 年度



(1) 定例会



定例会は、発足当時から毎月1回を基本に実施してきた。事業内容やスケジュールの確認が主な議題であるが、筆者の定例会の進め方は、必ずレジュメをしっかり作り込み、何を協議するのか、何を決めるのかを明確にしてきた。議事録代わりにもなるし、欠席された方にも協議内容がわかるようにするためでもある。また、進行が事務局からの一方通行とならないよう、ワークショップをしたり、市役所の出前講座を取り入れたりするなどの工夫も忘れなかった。

## (2) 地域の魅力資源調査



最初の取り組みとして、地域にどのような魅力資源があるのか、地域の特徴である寺社、町家、路地、塀、お堂、地蔵、石碑、緑などを調査した。協議会で実施したものもあるが、筆者が個人的に調査したものが圧倒的に多い。地域内をくまなく、そして何回も歩いた。歩く度に新しい発見もあり、同じ場所でも季節によって違った表情を見せてくれた。通りかかった地域の方々も声をかけてくれた。こうした地域の方々との出会いも調査の楽しみであった。こうした調査をもとに、「まち歩きマップ」や「地域の魅力資源集」を作成したり、身近なまちかど遺産を「姪浜まちかど遺産」として評価・紹介してきた。



### (3) 地域の魅力資源集の作成



(町家町並み)

ここからは、唐津街道姪浜を歩いてみて、特徴のある町家や面白いと感じた町家をテーマに紹介します。



卯建（うだつ）は、屋根の付いた小さな壁で、1階屋根と2階屋根の間に張り出すように設けられているものです。  
本来、町家が隣り合い連続して建てられている場合に、隣家からの火事が燃え移るのを防ぐための防火壁として設けられたのですが、後には装飾的な意味に重きが置かれるようになり、自分の財力をアピールするための指標として関西地方を中心に商家の屋敷上には互いに競って立派な卯建が付けられました。江戸時代中期頃に造られるようになったといわれています。



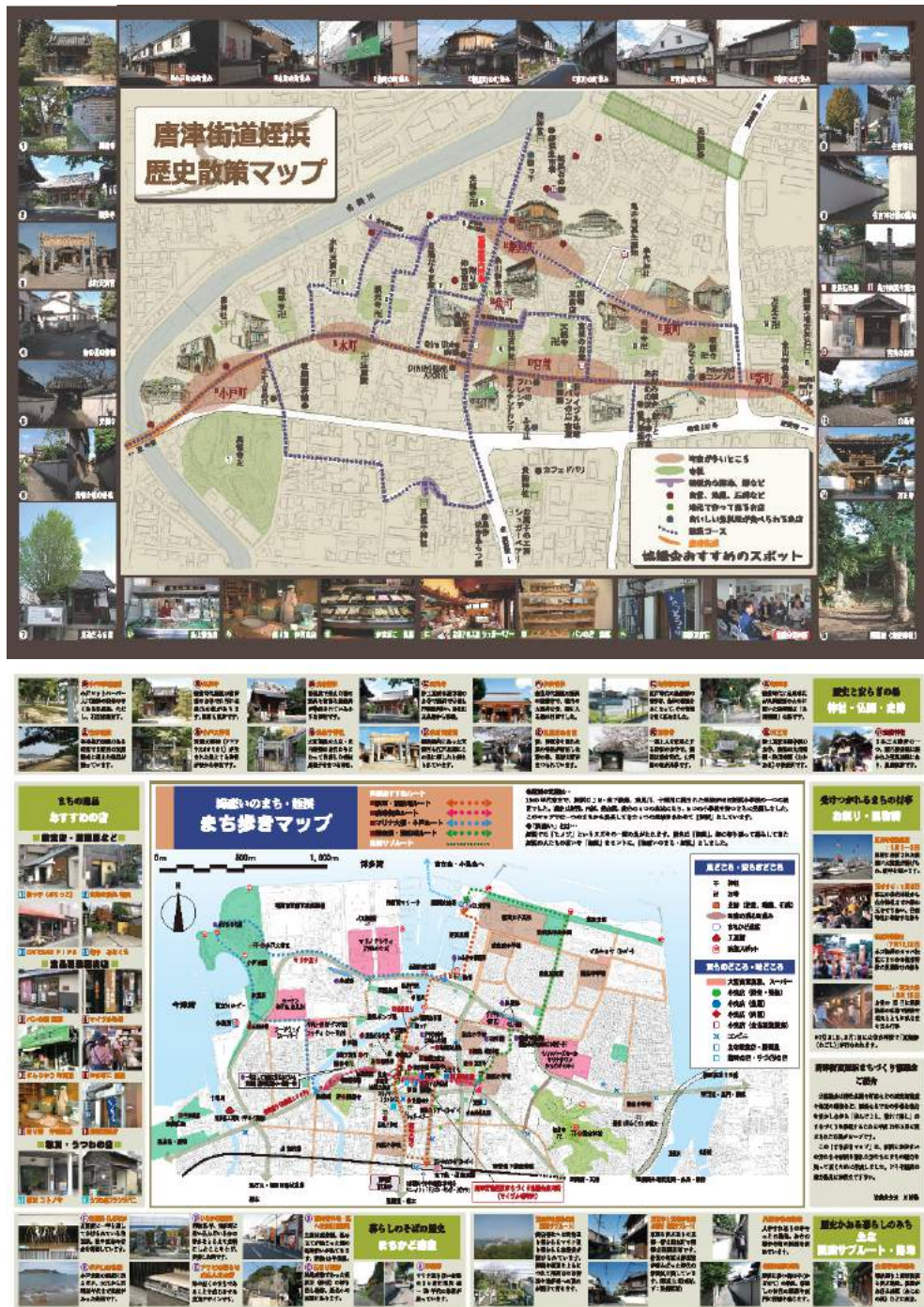
#### 詳細版

#### 概要版

地域の魅力資源調査をもとに「地域の魅力資源集～唐津街道姪浜 見て歩き、食べ歩き～」を作成した。当初版でも30数ページにも及ぶもので、我ながら力作であった。古いパソコンを使っていた時代で、動きが悪く、作成に苦労したのを思い出す。この資源集は協議会主催の最初のまち歩きイベント（平成20年3月）で参加者に配布され、とても喜ばれた。しばらくは、まち歩きイベントの度に更新を続けた。活動を始めた平成19年当時の姪浜の町並みの現状を伝える貴重な資料でもある。また、概要版も作成し配布した。概要版を拡大したものが、まちなみパネルである。



(4) まち歩きマップの作成・発行



地域の景観資源調査をもとに、「まち歩きマップ」を作成・発行し、地域の魅力を多くの市民に伝えてきた。当初版のマップ(平成 20 年3月発行)は、A3 両面、二つ折りのシンプルなものであり、片面が姪浜の魅力の紹介、片面がまち歩きマップとなっている(上段)。また、平成 23 年1月には広域回遊マップとして「海恋のまち・姪浜まち歩きマップ」を作成・発行した(下段)。B3 蛇腹折り加工で、折り畳めば B5 サイズで持ち運びしやすいものとした。25 年4月には、上記の2つのマップを組み合わせたものを作成・発行し、現在のマップ(28 年3月作成・発行)に引き継がれている。



(5) まちづくり講演会・シンポジウム①



平成19年9月に第1回目を開催して以来、「景観形成と地域づくり」をテーマに、春と秋を中心に年間2～3回実施してきた。会場の規模に応じて毎回30～120人が参加。寺社やみそ蔵、町家、旧郵便局舎での講演会などを通じて歴史的建造物の魅力を伝えてきた。手間暇とお金をかけても、姪浜ならではの場所(空間)にこだわるのが重要である。また、その時のタイムリーな話題と人、雰囲気などを総合的に判断していくのが事務局長である筆者の役割であり、進め方である。

(5) まちづくり講演会・シンポジウム②



平成19年9月に第1回目を開催して以来、「景観形成と地域づくり」をテーマに、春と秋を中心に年間2～3回実施してきた。会場の規模に応じて毎回30～120人が参加。寺社やみそ蔵、町家、旧郵便局舎での講演会などを通じて歴史的建造物の魅力を伝えてきた。手間暇とお金をかけても、姪浜ならではの場所(空間)にこだわるのが重要である。また、その時のタイムリーな話題と人、雰囲気などを総合的に判断していくのが事務局長である筆者の役割であり、進め方である。



(6) 登録文化財の登録への協力



旧マイヅル味噌の建物は、平成2年の福岡市教育委員会の調査では、あまり評価は高くなかったが、平成18年に改修工事を行った際に屋根裏から出てきた安全祈願札で江戸時代後期の建物であることが判明した。これを機会に登録文化財の登録に向けて、協議会会員と市の文化財担当の職員が協力して調査・図面作成を行った。各種手続きを経て平成19年12月に国の登録有形文化財に登録された(福岡市では第1号)。以降、協議会活動の拠点として、平成27年11月まで様々な形で活用させていただいた。平成28年末に役目を終えて解かれたが、みそ蔵での多彩な活動は姪浜の歴史のひとつまとして残っていくであろう。



(7) 景観歴史発掘ガイドツアー①



平成 20 年 3 月に第 1 回目を開催して以来、春(桜の頃)と秋(紅葉の頃)を中心に年間2~3回実施。毎回 40~60 人が参加。地域の見どころである寺社、町家、路地などを案内してきた。姪浜特産の「魚嘉の蒲鉾」や「仲西商店の削り節」の試食も参加者に大変喜ばれている。参加者との会話もまち歩きの楽しみである。2時間半のショートコースや昼食をはさんで回るロングコースも用意。いろいろな見どころを歩いて回れるのが姪浜の特徴であり、様々なバリエーションが可能である。こうした実践が「姪浜まち旅プロジェクト計画」につながっていくことになる。



(7) 景観歴史発掘ガイドツアー②



平成 20 年 3 月に第 1 回目を開催して以来、春(桜の頃)と秋(紅葉の頃)を中心に年間 2~3 回実施。毎回 40~60 人が参加。地域の見どころである寺社、町家、路地などを案内してきた。姪浜特産の「魚嘉の蒲鉾」や「仲西商店の削り節」の試食も参加者に大変喜ばれている。参加者との会話もまち歩き楽しみである。2 時間半のショートコースや昼食をはさんで回るロングコースも用意。いろいろな見どころを歩いて回れるのが姪浜の特徴であり、様々なバリエーションが可能である。こうした実践が「姪浜まち旅プロジェクト計画」につながっていくことになる。

(8) みそ蔵コンサート



みそ蔵コンサートは、マイヅル味噌の建物が平成 19 年 12 月に国の登録有形文化財に登録されたことを機に、その魅力を地域内外に広く伝えるとともに、幻想的な雰囲気の中での演奏を楽しんでいただきたいと実施してきたものである(1回目は平成 20 年3月。年間2~3回実施)。味噌の香りのする空間でのコンサートは珍しいということで、毎回多くの方々に参加していただいた。江戸時代後期に建てられ、地域のシンボルとなっているみそ蔵でのコンサートを通じて、歴史的建造物の魅力を伝えてきた。平成 28 年 12 月に役目を終え解かれたが、みそ蔵コンサートの思い出は忘れることはないだろう。



(9) 版画展・町家展



これは、「唐津街道版画展」「ディスカバー姪浜展」「町家散歩展」など唐津街道や姪浜、町家などをテーマにした展示会であり、平成20年3月に第1回目を開催して以来、毎年1回程度、みそ蔵を中心に実施してきた。版画家の二川秀臣氏や漫画家の長谷川法世氏の作品も数回にわたり展示し、毎回500人程度の市民に来場いただいた。企画と準備は大変であるが、場所と内容にこだわった姪浜ならではの事業である。いろいろとところで構築してきた筆者の人的ネットワークを存分に活用させていただいた事業でもある。



(10) 先進都市調査



これは、町並みなどの地域固有の魅力資源を活かしたまちづくりを推進している地域の調査であり、会員に実際に見て感じてほしいと企画したものである。姪浜とは置かれている状況は異なるが、他の都市を参考にしながら「姪浜の魅力資源をどのように活用していくのか」についてしっかり考えていくことが必要である。先進都市調査は、そのための絶好の機会である。協議会会員や関係団体の皆さまと一緒に視察に行った肥前浜宿、塩田宿、臼杵、杵築の町並みが印象に残っている。

(11) まちなみパネル展



春と秋のイベントなどに合わせ、地域の見どころを紹介する「まちなみパネル展」を実施してきた。これは、地域資源集の概要版を A1 サイズに印刷してパネル化したもので、当初は 16 枚のパネルを作成。このパネルの最初の出番は、平成 20 年 10 月の「西区まるごと博物館 IN 小戸ヨットハーバー」であった。大きさと枚数、統一されたデザインに来場者の評判も上々だった。このパネルは、毎年秋の「西区まるごと博物館」での展示だけでなく、みそ蔵でのイベントなどの際にも何度も使われ、姪浜の魅力紹介ツールとしての役割を果たしてきた。



(12) 他団体との交流・連携活動



唐津街道の宿場町で地域づくりに取り組む関係者で構成する「唐津街道サミット」を、各宿持ち回りで平成 20 年度からほぼ毎年開催。町おこしや地域づくりをテーマに、それぞれの地域の抱える課題や取り組み事例などについて意見交換を行っている。これまで、赤間宿、畦町宿、箱崎宿、西新高取、姪浜宿、前原宿、深江宿で開催した。各回、まち歩きと意見交換、懇親会という構成である。姪浜宿では、平成 23 年3月に開催し、姪浜ならではの空間と料理でおもてなしをさせていただいた。





本堂前のコンサート会場。マンションが林立する足元に伝統的な街並みが息づいている＝福岡市西区姪の浜5丁目

福岡市西区姪の浜の旧唐津街道（小倉―唐津）沿いの住民らでつくる実行委員会が10月3日午後7時から、地区で最も古い寺院、興徳寺で「灯明コンサート」を開く。宿場町でありながら、商人町、漁師町といくつもの顔をもっていた姪の浜の、寺町としての側面を、地区内外の人に知ってもらおうと企画した。

# 灯明空間 響く音色

## 姪の浜 古寺で来月コンサート

### 寺町のよさ 有志PR

定員200人。参加費1500円。申し込みは、住所、氏名、年齢、電話番号を書いたはがき（〒819-0013 福岡市西区愛宕浜2-3の2の601）またはメール（otih-hasa@iwk.dti.ne.jp）、ファクス（092-8882-3883）で大塚さん（090-7992-97758）まで。

コンサート会場に計400の灯明を置く。好天なら大木のクスノキの下で、雨がひどければ本堂で演奏を聴いてもらう。約30人からなる実行委はこの2年ほど、江戸期以前のさまざまな面影を残す姪の浜の魅力を知ってもらおうと、白壁の町屋、寺の長塀に沿った迷路のような路地でのウォークラリーや、町屋内の見学ツアーなどを企画してきた。

その一人で市役所勤務の大塚政徳さん（51）によると、地区内には、主だった寺が八つ、10を超す神社がある。1260年創建の興徳寺は、7千坪を超す境内にクスノキやカシがうっそうと茂る。「興徳寺を抜きに寺町の浜は語れない。お寺独特の空間でしか味わえない音楽を聴いてほしい」

境内が外部のイベントに使われるのは初めて。提供を快諾した福山正文住職（67）は「観光寺院ではありませんが、地元の方々が懸命に頑張っておられるので、協力しようと考えました」と話す。

## 読売新聞 福岡西かわらばん

### 姪浜大好き落書き消し隊

**児童8人 寺でペンキ塗り**

「昔からある場所大事にしたい」

福岡市西区の「七瀬路の心」の中庭（写真左）

「昔からある場所大事にしたい」

福岡市西区の「七瀬路の心」の中庭（写真左）

### 古い町並み 地域の財産に

#### 昔ながら生かして 活性化活動

福岡市西区の「七瀬路の心」の中庭（写真左）

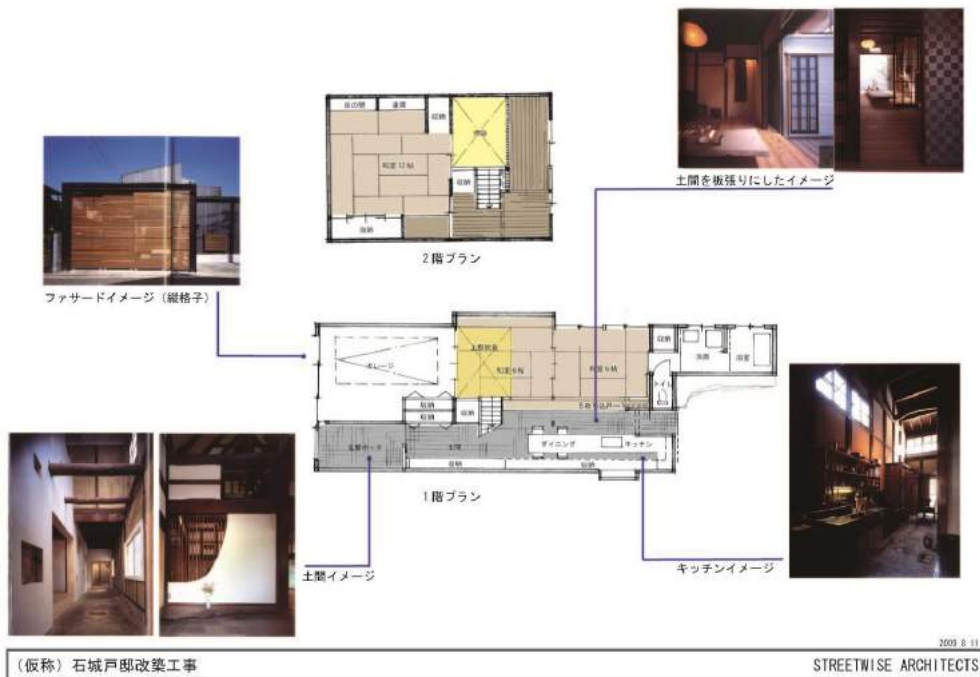
福岡市西区の「七瀬路の心」の中庭（写真左）

福岡市西区の「七瀬路の心」の中庭（写真左）

地域づくり活動において、マスコミの力を借りることは重要であり、イベントや受賞の広報にあたっては「マスコミに記事にもらえる内容」を常に意識して活動を進めてきた。一生懸命活動をして、地域の方々に協議会の活動を知ってもらえなければ、何の意味もないし、何もしないのと同じことである。また、マスコミを通じた地域への情報発信は、地域内外へのPR効果も高く、地域の方々の地域への誇りや愛着の醸成につながっていったと確信している。



(14) 町家再生の実践



これは、町家改修に当たっての相談やアドバイスをし、住まい方や町並み形成への配慮について提案してきたものである。改修にあたり、景観形成に十分配慮していただいた事例もある。その一方、空家状態であった町家の活用について打診し、内部まで調査させていただいた家もあったが、親族の反対で解体・建て替えられた家もある。また、各店舗の自主的な取り組みとして、古い町家や家屋が飲食店やカフェ、美容室などとして再生・活用される事例も増えてきている。これも今までの協議会活動の成果のひとつと言えるだろう。

(15) 灯明コンサート



多くの寺社があることも姪浜の大きな特徴であるが、地域の方々は意外とその歴史や魅力を知らない。灯明コンサートは、音楽だけでなく、普段味わうことのできない幻想的な雰囲気と魅力的な夜間景観を演出し、参加者に姪浜の魅力を伝えていくことを目的に行うものである。平成21年10月に第1回目を開催して以来、これまで5回実施してきた(興徳寺3回、姪浜住吉神社2回)。毎回180~250人が参加。姪浜ならではの空間と時間の中で、至福のひとときを過ごしていただいている。

(16) 旧町名表示板の設置



具体的に目に見える形でまちづくりを実践していくため、協議会でできることから取り組むことになった。その最初の事例が旧町名表示板の設置である。地域の方々に地域への誇りや愛着を感じていただきたいという思いから、昭和 30 年代の町名表示板を作成し、散策コース(景観回遊路)の主要な場所に設置している。これは、会員手作りのプレートであり、協議会オリジナルの事業である。外注するのではなく、会員が手作りで地域への想いを込めて作ることに大きな意義がある。



(17) まちづくり活動拠点（まちの案内所）の開設・運営



平成 22 年2月に、国の登録有形文化財であり、地域のシンボルとなっているマイヅル味噌の建物内に「まちの案内所」を開設した。これは活動を進める過程で、会議をするスペースや荷物を置くスペースが必要になったものであり、味噌貯蔵用の冷蔵庫が置かれていた 20 m<sup>2</sup>の部屋を、約3ヶ月かけて会員が手作業で壁塗りや床張り替えるなどを行った。ここでは、会議の他、周辺の見どころを紹介したまち歩きマップやかわら版の配布、イベントや唐津街道に関する情報提供などを行ってきた。

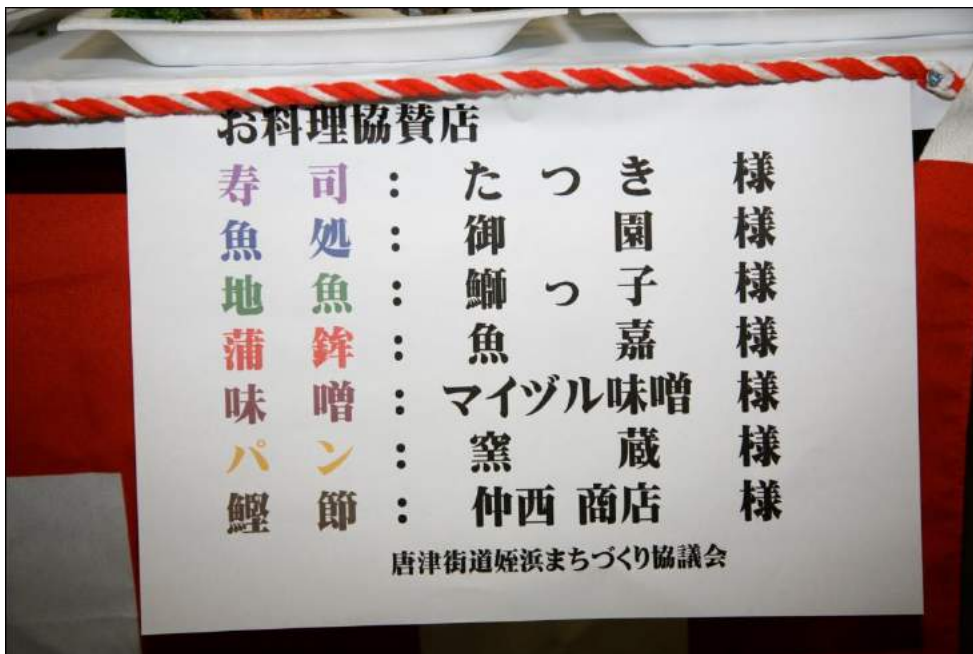


(18) 姪浜の食材を使った料理でのおもてなし①



唐津街道サミットや全国町並みゼミなどの懇親会では、姪浜の食材(新鮮な魚、白魚、姪浜海苔など)を使った料理や、姪浜の名産品(魚嘉のかまぼこ、仲西商店の削り節、窯蔵のパンなど)を使った料理を提供し、参加者に大変喜ばれた。これは、肥塚副会長の提案によるもので、こだわりとおもてなしの気持ちを料理に込めたものである。こうした地道な取り組みが、姪浜ブランドの構築につながることを実感した。

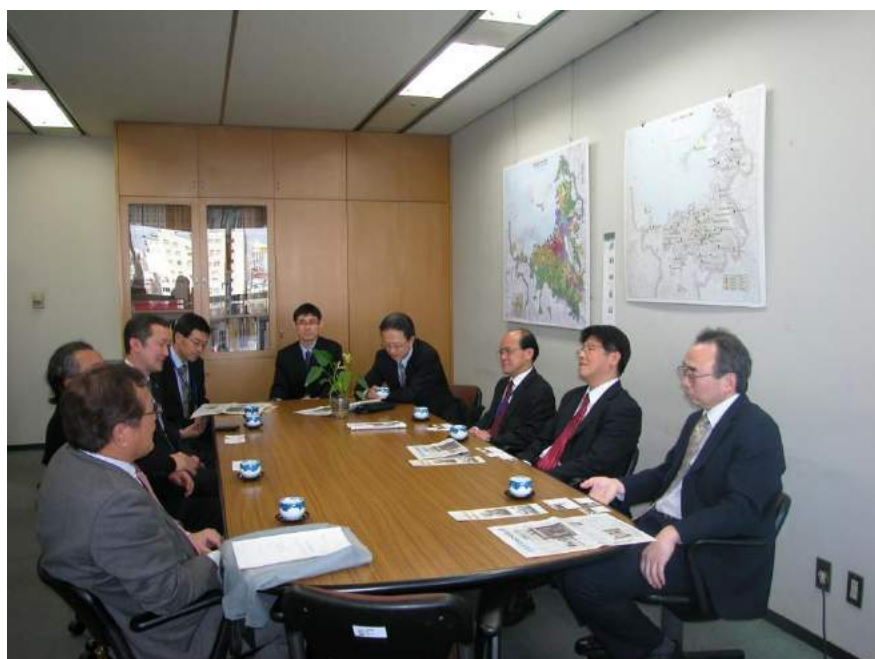
(18) 姪浜の食材を使った料理でのおもてなし②



昼食をはさむまち歩きイベントの際に、姪浜の老舗の料理店に協力いただいて特製の姪浜弁当を作っていたり、地域との交流会で姪浜ブランド店の協力をいただき、参加者に提供させていただいたこともある。手間暇はかかり、スタッフは大変であったが、まちづくりにはこうしたこだわりが大切である。中心になって企画・実践していただいたのは肥塚副会長である。姪浜への強い思いを持った肥塚さんならではの企画であり、こうした会員の存在と地道な取り組みが地域内外への発信力につながっていったのである。



(19) 景観づくり地域団体の認定



博多部の御供所地区に続き、福岡市都市景観条例に基づく「景観づくり地域団体」に認定された（平成 22 年 3 月）。これは、これまでの景観まちづくりに寄与する協議会の活動を福岡市が高く評価し、認定したものである。わかりやすく言えば、協議会が景観形成に配慮したまちづくりを進めていくことを行政が認定できる制度であり、自他ともに「景観」をキーワードとしたまちづくりを進めていくことを地域内外に宣言するものである。筆者が在籍中は「姪浜景観づくりの手引き」と「姪浜景観まちづくり宣言」を策定したが、今後は各会員のスキルアップとともに、地域の方々をいかに巻き込んでいくかが課題である。

## (20) 全国区の助成金へのチャレンジ

活動概要	
登録NO	2-59
市町村名	福岡県 唐津市
団体名	唐津街道姪浜まちづくり協議会
活動名	歴史的環境を活かした「住んでよし、訪れてよし」の町並み・まちづくり推進事業

### 1. 活動地区の概要

唐津街道沿いの旧唐津町界隈(旧唐津地区)には、現在も中世、近世の歴史町並みの中に唐津、福岡市内でも有数の歴史的環境を有している。一方、地区の最西部には唐津のアトレットモール、コトハーパー、池津、南浜公園等が集中しており、市の内外から多くの人々が訪れている。しかし、旧唐津地区の歴史的な魅力は地域内外ともあまり知られておらず、唐津を訪れる人が旧唐津地区に立ち寄ることはほとんどなく、新旧の地域資源は旧唐津地区の活性化や居住環境の向上に活かされていない。



### 2. 活動内容

(1) 活動拠点(地域の魅力発信拠点、まちの案内所)の運営

・空母有形文化財の博物館に開設した協議会の拠点が、まちづくり活動やまちづくりの情報発信、まち案内の拠点となるよう運営した。



(2) まちづくり活動の広場

・まちづくり活動を広く地域住民や観光客に発信することを目的とした「まちづくり互版」を2回発行した。

(3) 地域の魅力資源調査及びその成果を活用したマップ等による情報発信

・従来の「歴史観光マップ」の他に、身近にあっても目撃しにくい見逃している歴史的遺産や重要遺産、生活の軌跡、旧町名の由来、臨海部等の周辺エリアの魅力資源などを調査し、それを基に「まち歩きマップ(まち歩き調査マップ、広域回遊マップ)」を作成し、地域内外に地域の魅力を情報発信した。また、これらの調査を基に「まち歩きマップ(地域の魅力資源集)」を作成した。



(まち歩き互版 新刊号)

(まち歩きマップ)

(4) 景観まちづくりと地域活性化計画の作成

・地域住民を対象としたワークショップを繰り返し実施し、「唐津固有の歴史的環境を活かした町並みづくりと地域の賑わい形成」に向けた「景観まちづくりと地域活性化計画」を作成した。



#### ■「景観まちづくりと地域活性化計画」の骨子

- ◆広域回遊ネットワークづくり
- ◆唐津のまちの個性の再構築(町並み形成)
- ◆商店街の賑わいづくり
- ◆歴史ブランドづくり
- ◆地域を知る集・集會づくり
- ◆環境に優しいまちづくり

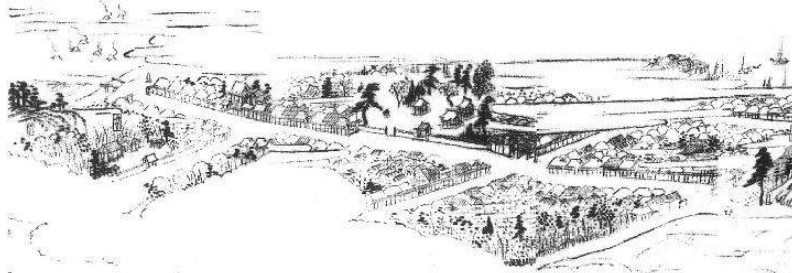
3. 活動の際に悩んだ点

・活動拠点の運営については、賛助体制が整っておらず、協議会会員が不在時には家主であるマイブル借主のオーナーに対応してもらうことになり、今後の課題と考えている。

4. 活動の際に工夫した点

・上記①-④の活動は、相互にリンクしており、より効果的なものとなるよう関連付けながら活動を行った。  
 ・「景観まちづくりと地域活性化計画」作成にあたっては、当該地域ならではの実現可能なメニューを盛り込むとともに、平成23年度以降の事業展開を見据えながら計画作成を行った。  
 ・景観ガイドツアー、みそ蔵コンサート等の助成対象以外の事業については、まちづくり互版でイベント紹介を行うことで、より効果的に広報活動を行うことができた。

## みそ蔵を再び地域のシンボルに! ～姪浜の歴史的・景観的シンボル再生活用プロジェクト～



江戸時代の姪浜と唐津街道(筑前名所図會)

2014年7月  
唐津街道姪浜まちづくり協議会

全国区の助成金にも果敢にチャレンジし、まちづくり活動を一層軌道に乗せることができた。筆者は協議会活動全体を見渡し、どの時期にどのような活動を進めていくのかを的確に把握し、それに応じた適切な助成金獲得を常に視野に入れていた。助成金を何に使うのではなく、数ある助成金の中から、協議会の活動状況に応じた助成金を選択し、チャレンジしていくことが大切であり、筆者は常にそれを意識していた。筆者が在籍中は7つの全国区の助成金に採択されたが、打率としては3割5分～4割程度と記憶している。



(21) 地域との交流会



アニバーサリー事業や受賞記念祝賀会では、日頃から協議会の活動にご支援・ご協力いただいている方々をお招きし、交流会を実施してきた。この中では、協議会の活動状況の報告や姪浜在住の演奏家によるミニコンサートを組み込み、交流を深めた。交流会は単なる懇親会ではない。「景観づくり計画」の報告会や「姪浜町家」認定プレート贈呈式などを組み込むことで、地域の方々に協議会の活動状況を伝えることができた。また、地元の音楽家に演奏していただくことで、地域としての一体感も演出することができた。

(22) 九州大学との連携（都市・建築ワークショップ等）



これは、九州大学の大学院生や建築学科3年生を対象にしたワークショップである。「今の学生は社会との接点が少なく、何でもできると思込んでいる」ということで、地域に出かけ、実際にまちづくり団体がどのような取り組みをしているのかを学ぶため、企画しているとのことである。一人でも多くの学生に、姪浜というまちに関心を持っていただけたらと思う。社会人になってからも、それぞれの地域のためにまちづくり活動に尽力している人々がいることを認識していただくとともに、こうしたフィールドワークの体験を今後の仕事に活かしてほしいと思う。



(23) 様々な場面での姪浜の PR



様々な賞を受賞する中で、国や自治体などからの依頼による視察研修を受け入れてきた。こうした場では、それぞれの時期の地域課題に対応した目標を立て、具体的な活動を粘り強く実践してきたことを PR させていただいた。町並み形成という点ではまだ成果は出ていないが、地道で多彩な活動は他の自治体や関係者の皆さま方にも大いに参考にしていただけたことと思う。こうした地道な PR は、いろいろな地域のまちづくり団体からの視察の増加につながっていった。

(24) 視察受入&意見交換



様々な賞を受賞する中で、他の地域のまちづくり団体からの視察研修も増えてきた。多彩な活動をPRするとともに、姪浜の見どころを案内させていただいた。活動を始めた頃はこちらが視察に行くことが多かったが、姪浜をフィールドにこうした視察研修を実施していただくことをとても光栄に思う。他の団体の取り組みについて、むしろ筆者らが見習うことの方がまだまだ多いと思う。協議会にとって、受賞はあくまで通過点であり、謙虚な姿勢でさらに活動を推進していく必要がある。



(25) かわら版の発行



かわら版は、姪浜の魅力やまちづくり活動を地域の方々に広く発信することを目的としている。協議会活動を主体に、イベント情報の提供の他、「姪浜・まちかど遺産ピクニック」「まちなみ今昔」「トピック」「事務局長通信」などを掲載した(A3版、両面カラー)。姪北校区や姪浜校区での回覧板での広報の他、協議会案内所、地域内の主要なお店、近隣の5公民館、西区役所、福岡市情報プラザなどで配布した。地域内外の評判も上々であり、協議会の活動を広くPRする絶好の機会となっていた。筆者が協議会に在籍中、編集長として創刊号～第9号、号外(1回)の計10回発行した。

(26) まちづくり計画策定ワークショップ



新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の方々とともに進めていくため、まずは、まちづくりの共有指針となるまちづくり計画策定に向けて、地域住民を対象としたワークショップを行った。テーマは、「地域固有の歴史的環境を活かした町並みづくり」「歴史的魅力を活かしつつ、臨海部の集客施設との連携をも考慮した商店街の賑わい形成」などであるが、具体的でわかりやすい課題を出し合いながら、楽しく取り組むことで、参加者に姪浜のまちづくりに関心を持っていただいた。



(27)「元気！姪浜計画」の策定



ワークショップやアンケート調査などを踏まえ、「元気！姪浜計画」を策定した。これは、地域による、地域のためのまちづくり計画であり、短期、中期、長期ごとに、具体的に何をしていくかの方向性を示したものである。協議会では、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかとこ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の皆さまとともに進めていきたいと考えている。「元気！姪浜計画」は、こうした想いを込めて策定したもので、地域のまちづくりの共有指針となるものと考えている。今後、具体的な実践活動に取り組んでいく必要がある。

(28) 女性部会「はまこみち」の発足・活動



女性部会「はまこみち」は、まちづくり講演会の講師である高山美佳氏(地域デザイナー)の「地域の活性化は、女性の口コミで大きく変化していく」という言葉に感銘を受け、女性4人で立ち上げたものである。「演劇ワークショップ」「はまこみちカフェ」「姪浜漁協の協力による魚料理教室」「秋のコンサートIN 姪浜住吉神社(津軽三味線コンサート)」など、女性ならではの視点を活かした地道な活動を精力的に展開してきた。しかし、男性会員とのコミュニケーション不足などにより、女性部会としては2年程で解散し、新たな組織「姪浜商店街の女将さんを応援する会あこめっこ」を立ち上げ、活動を進めている。





(30) 「姪浜ブランド」のPR



「姪浜ブランド」に認定するだけでなく、協議会としても機会を捉えて広くPRすることで、お店だけでなく、地域にとっても宣伝効果は高いと考えている(Win-Win-Winの関係)。協議会のイベントだけでなく、唐津街道サミットの活動の一環としても西新商店街や西新プラリバで販売活動をし、PRさせていただいたこともある。また、マスコミ取材においても、姪浜ブランド店や商品を率先して紹介している。こうした活動により、姪浜ブランド店との信頼関係を強くし、絆を構築できたと確信している。



(31) 景観づくり委員会



「元気！姪浜計画」の主要な基本方針のひとつである「姪浜のまちの個性の再構築（住まいづくり・町並み景観づくり）」の実現に向けて、地元関係者、関係団体、九大生、専門家、行政職員などで構成する「唐津街道姪浜景観づくり委員会」を立ち上げ、景観づくり計画の検討を進めていった。具体的には、ワークショップ形式を取り入れながら、各委員から町並み形成や地域活性化に向けた多彩なアイデアをいただきながら段階的に検討を重ねた。

(32) 「景観づくり計画」の策定

姪浜景観づくり計画



平成24年6月  
 姪浜景観づくり委員会  
 唐津街道姪浜まちづくり協議会

**地域の個性をく路地** ●キーポイント：「家柄」が生まれるような路地に育てる。  
 ・路地にはたくさんの路地があります。寺社の路地、商店の路地、民家の路地、職人の路地、路地それぞれが持っている特徴を活かした景観づくりを提案すれば、歴史のまちに一番の魅力があります。「家が生まれる路地」や「田舎したくなる路地」を育てていきましょう。



■事例：まちの歴史を感じさせる路地 ★市：唐津地区の事例  
 ＊住吉神社土蔵の路地 ＊龍光寺前の路地 ＊光福寺前の路地



■事例：情緒やわくわく感のある路地  
 ＊日輪寺前の路地 ＊新商店街の路地～建物の高さから見た景観が少ないために広さが助られています。



■事例：花や緑が気持ちをなごませる路地  
 ＊姪浜通り風の路地

<参考>景観づくり委員会委員の提案①  
 ●景観づくりについて  
 ○みんなが少しでも景観を良くする取り組み  
 ○景観に対する勉強会の開催や観光客への呼びかけ  
 ○景観のまちづくりを推進するプラットフォーム  
 ○まちづくりの推進やまちづくりの推進  
 ○まちづくりの推進やまちづくりの推進  
 ○まちづくりの推進やまちづくりの推進



景観づくり委員会での議論を踏まえ、平成24年6月に「景観づくり計画ステップ1～景観づくりの考え方と景観よかごと事例集～」を策定。その後も議論を重ね、26年3月に「景観づくり計画ステップ2」を策定した。ステップ2では、姪浜固有の地域資源を活かした景観づくりを浸透させ展開していくため、「景観づくりと並行して進めるべき実践活動」や「景観づくり推進組織」についても提案している。



(33) 「姪浜町家」の策定



姪浜には、江戸時代から昭和初期にかけて建てられた約 100 軒の町家が残っているが、老朽化や後継者不足などの理由で取り壊される家が増えている中で、当協議会が独自に「姪浜町家」に認定することで、価値を再認識していただくきっかけになればと考え、こうした取り組みを始めた。選定にあたっては、当協議会のメンバーが平成 23 年秋から現地調査や所有者へのヒアリングを行い、保存状態や町並みへの貢献度などを総合的に判断し、姪浜町家として認定した。認定した町家の所有者には、当協議会から手作りの認定プレートを贈呈させていただいた。筆者が協議会に在籍中 26 軒の町家を認定した。

(34) ディスカバー姪浜展を主体としたウィークリー事業①



これは、みそ蔵をメイン会場とした一週間単位の事業であり、姪浜に関する絵画や写真などを展示した「ディスカバー姪浜展」と、「みそ蔵コンサート」「姪浜シネマ」「景観歴史発掘ガイドツアー」などを組み合わせたものである。姪浜の多彩な魅力を知っていただけたことと思う。この他、講演会やワークショップなど様々な組み合わせにも取り組んできた。



(34) ディスカバー姪浜展を主体としたウィークリー事業②



これは、みそ蔵をメイン会場とした一週間単位の事業であり、姪浜に関する絵画や写真などを展示した「ディスカバー姪浜展」と、「みそ蔵コンサート」「姪浜シネマ」「景観歴史発掘ガイドツアー」などを組み合わせたものである。姪浜の多彩な魅力を知っていただけたことと思う。この他、講演会やワークショップなど様々な組み合わせにも取り組んできた。

(35) 町家活用イベント（姪浜シネマ、町家コンサート）



これは、みそ蔵以外の歴史的建造物の活用の可能性を探るため、伝統的町家で映画の鑑賞会やコンサートを企画・実施したものである。姪浜ならではの魅力を発信していくためには、公民館などではなく、姪浜ならではの場所にこだわる必要がある。今後は、空家となっている町家の活用の可能性も検討する必要がある。



(36) 着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き



姪浜らしさにこだわった事業にチャレンジしていく一環として、「着物で唐津街道の町並みをそぞろ歩き」を定期的実施した。これは、唐津街道の趣のある町並みを着物で散策しながら、まちの歴史や景観を学び、伝統文化に触れてもらうものである。春は光福寺や万正寺、観音寺の満開の桜に、秋は興徳寺や住吉神社の紅葉に参加者に大変喜んでいただいた。沿道の方々も美しい着物姿に魅了された様子で、「着物の似合うまち・姪浜」をアピールできた。



(37) まちなみネットワーク活動



平成 24 年度に「全国町並みゼミ福岡大会」が開催されたことを契機として、福岡県内で町並みなどの地域遺産の保存継承に取り組む団体が「まちなみネットワークふくおか」を組織し、平成 25 年度から持ち回りで「まちなみフォーラム」を開催している。姪浜で第1回目を開催、その後も大川（小保・榎津）、内野宿、津屋崎で開催している。地域遺産を活かしたまちづくりの方向性や、その戦略と実践方策について考え、姪浜の景観づくりのヒントもたくさんいただき、今後役に立てていきたいと思ったところである。



(38) 地域のシンボルであるみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動①



旧マイヅル味噌のみそ蔵は、姪浜の歴史的・景観的シンボルであり、地域のまちづくり・景観づくりに欠かせない重要な建物である。筆者らは、地域のシンボリックな空間を残し、何らかの形で活用していきたいと考え、所有者の協力を得て平成 25 年秋から定期的に特別公開させていただいた。また、公開に合わせ「姪浜展」「トークショー」「ワークショップ」「みそ蔵コンサート」などを開催し、建物の価値や後世に残していくことの意義、活用方法について、来場者と考えてきた。

(38) 地域のシンボルであるみそ蔵の再生・継続的活用に向けた活動②



旧マイヅル味噌のみそ蔵は、姪浜の歴史的・景観的シンボルであり、地域のまちづくり・景観づくりに欠かせない重要な建物である。筆者らは、地域のシンボリックな空間を残し、何らかの形で活用していきたいと考え、所有者の協力を得て平成 25 年秋から定期的に特別公開させていただいた。また、公開に合わせ「姪浜展」「トークショー」「ワークショップ」「みそ蔵コンサート」などを開催し、建物の価値や後世に残していくことの意義、活用方法について、来場者と考えてきた。



(39) 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動①



次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力を伝えていきたいと考え、子どもたちを対象にした事業にも取り組んできた。「子どもまちなみ探検隊」では、歴史ある寺社、昔ながらの町家、迷路のような路地、そして蒲鉾や削り節の試食というような姪浜ならではの内容に、参加した子どもたちは興味津々で大満足の様であった。まち歩き後に俳句を詠んでもらい、子どもたちの感性の高さに驚かされたこともある。また、景観回遊路に面した、落書きの酷かったお寺の塀を子どもたちに手伝ってもらい、きれいに修景(塗装)したこともある。

(39) 子どもたちを対象にした景観づくり普及活動②



次の世代を担う子どもたちにも姪浜の魅力伝えていきたいと考え、子どもたちを対象にした事業にも取り組んできた。「遊覧船&夏休み親子まちなみ探検隊」は、海や港との関わりの深い姪浜の魅力を再発見するガイドツアーである。魚市場の競りやクルーザーなどを見学した後、遊覧船に乗船し博多湾から福岡のまちなみを楽しもうというものである。猛暑の中であったが、約 20 名の親子が参加。世界 55 ヶ国から姪浜港を選んでいただき、ヨット生活を送っているヤップさんの双胴船にも乗船させていただき、子どもたちは大喜びの様子であった。





住民組織「姪浜まちづくり協」



宿場町の歴史伝え日本

都市計画の  
全国大会



福岡市西区姪浜地区の地域おこしグループ「唐津街道姪浜まちづくり協議会」が、NPO「日本都市計画家協会」（東京）が主催する全国大会で第1席の「日本まちづくり大賞」を受賞した。江戸時代、街道の宿場町として栄えた姪浜の歴史や街並みを今に伝える地道な活動が実を結んだ。

同協議会は2007年3月、地元住民らで結成。現在46人のメンバーが、街道沿いに残る町家の保存や歴史散策ツアーのガイド、地域情報を盛り込んだ「かわら版」の発行などに取り組んでいる。

全国大会は今年5、6日、新潟県長岡市であった。応募した全国のNPOや住民グループなど14団体のうち、書類審査を通過した8団体が集まり、各団体の代表者がプレゼンテーションを行った。

審査員は、大学の名誉教授や都市計画のコンサルタ

町家保存や散策ツアーガイド  
多彩な取り組み 高評価

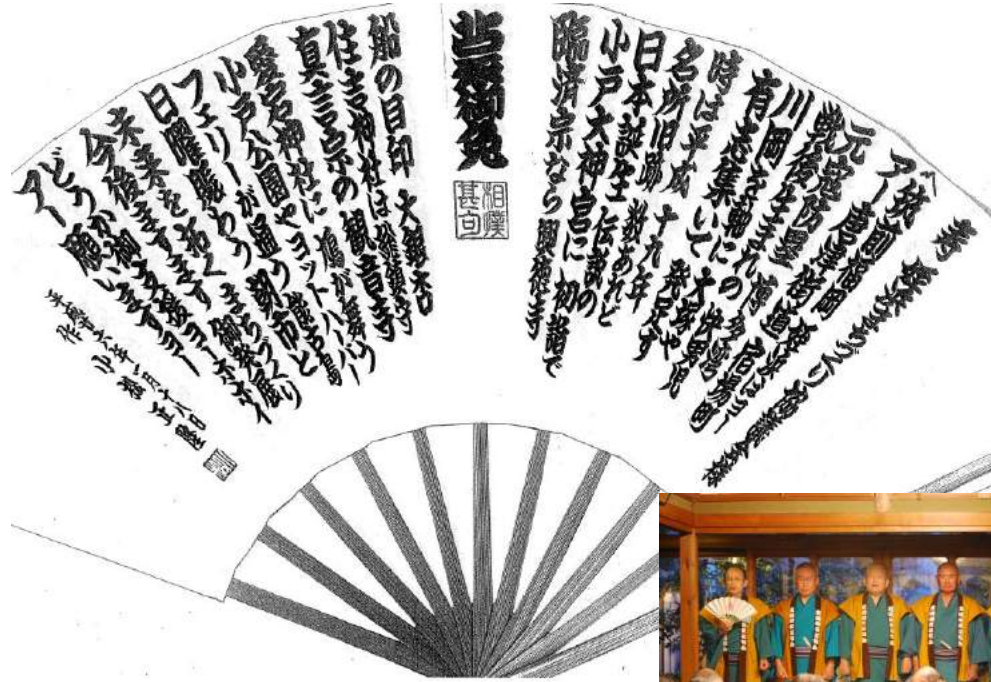
ントら8人。大会参加者ら約50人による一般投票もあり、審査の参考にした。一般投票でトップに立った同協議会は、審査員からも「活動が多彩で地道で着実」と高く評価され、日本一の座に輝いた。

プレゼンテーションをした同協議会事務局長の大塚政徳さん(55)は「地元を根を張った私たちの活動が全国的にも評価されて光栄。会長の川岡保さん(65)は「地域住民の協力があってこそ受賞につながった。これを糧に姪浜の魅力をさらに発信していきたい」と語った。(首藤厚之)

平成25年度～27年度に全国区の賞に果敢にチャレンジし、5つの賞を受賞した。これに伴い、マスコミからの取材も大幅に増えた。特に「NPO 都市計画家協会日本まちづくり大賞」や「都市景観大賞（国土交通大臣賞）」の受賞は全国へのPR効果も高く、いろいろな取材を受けたり、遠方から視察に来られる団体も出てきた。また、地域の団体や住民の皆さま方からも協議会の活動を評価していただけるようになった。各種賞の受賞及びそれに伴うマスコミを通じた地域への情報発信は、地域の皆さま方の地域への誇りや愛着の醸成につながっていったと確信している。



(41) 地域からの贈り物



姪の浜史跡めぐりの歌

- 一 博多の駅をあとにして 姪の浜へいざ行かん  
地下のトンネル走り行く 空港線の心地よき
- 二 唐津に向かう筑肥線 相互乗り入れ便利よく  
高架のホームの姪の浜 行き交うバスも絶え間なし
- 三 白魚踊る室見川 河口に貝掘る人もあり  
愛宕の山は木々青く 雨はかすむ叶ヶ岳
- 四 姪浜駅の北口に 立てば母校の内浜小  
我も娘も時超えて 学びて遊ぶ楽しさよ
- 五 渡船場の岸あとにして フェリーに乗れば十分余  
春は桜の能古の島 夏は涼しさ森の陰
- 六 コスモスの花の咲く頃は アイランドパークで楽しまん  
集まる親子も数知れず 夕焼けの空も忘れぬ
- 七 権一雄の旧宅や 思索の森に展望台  
立ちて東を眺めれば 海の中道 志賀の島
- 八 遠い故郷に妻や子を 残して来たる防人の  
うたも哀しや万葉に 心を映す波の色
- 九 父は二十で遠泳し 能古の向かいの岸につく  
小戸公園と今は呼ぶ 遊ぶ親子の数多し
- 十 神功皇后の凱旋を 今も語るか磯の風  
小戸大神宮も祀られて 神代を偲ぶ御膳立

- 十一 袖ヶ浜を後にして 名柄の川に沿い行けば  
鎌倉武士の昔より 建てる楚は興徳寺
- 十二 しっくい塗りの白壁や 町家作りの小格子の  
奥に三毛猫昼寝して カラス飛んでも目もさめず
- 十三 街道に沿う水町に 仰ぐイチョウの天満宮  
梅の香かおる境内に 祀るは菅原道真公
- 十四 その梅の実は七草の 郷とて今年々に  
詣でる人にふるまって 今に伝わる鬼すべよ
- 十五 いかなる縁か室町の 昔に建てる照林寺  
その御霊屋の奥深く 菅公の神体祀られて
- 十六 過ぎし昔の吉日に 舞鶴城より移せしと  
み輿の裏に墨黒く 残せし人は誰ならん
- 十七 母を亡くして幾年ぞ 彼岸に参る菩提寺の  
墓前に香をくゆらせて 祈るは君と子らのため
- 十八 九州霊場 法蔵院 春は甘茶の花まつり  
秋は歩きの町めぐり 参拝男女四時絶えず
- 十九 銀杏の実の熟すころ 順光寺の横通り  
三叉路に立つ庚申塔 ゆかり知る人今いずこ
- 二十 枕の草子の昔より 近くは志ん生の落部まで  
庚申待ちの名を留めし 赤きお面は猿田彦

平成 25 年度に3つの栄えある賞をいただき、マスコミに大きく取り上げられたこともあり、地域の皆さま方から「姪の浜史跡めぐりの歌」を作っていただいたり、姪浜の名所旧跡及び三賞受賞に関する「相撲甚句」を作っていただいた。相撲甚句については、協議会のイベントでも2回披露していただき、出席された方々も大変感激されていた。こうした地域の方々からの贈り物は、「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成と双方向のまちづくりへの展開」につながりつつあると感じた次第である。



## (42) 景観まちづくり宣言

### 「姪浜景観まちづくり宣言～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～」

姪浜のまちを眺めながらじっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにたくさんの「よかところ」を発見することができます。歴史ある数々の寺社、古い町家、唐津街道、路地、祠、お堂、寺社や民家の花・緑、港の風景など数え上げると切りがありません。このように姪浜は「寺町」「宿場町」「港町（漁師町、廻船町）」の面影を今に伝える全国的にも珍しいまちです。

私たちは、地元の人たちにとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人たちにとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、このような多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域の皆さま方とともに具体的に実践していくため、ここに「姪浜景観まちづくり宣言」を行います。

『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』の実現に向けて、地域の総力を結集して取り組んでいきましょう。

#### ○姪浜ならではの多彩な歴史や文化を活かした景観づくりを進めよう

興徳寺や住吉神社に代表される寺社、江戸時代から昭和時代にかけての伝統的な町家、唐津街道の宿場の名残を感じさせる町並みや道の形、海辺のまち独特の路地のネットワーク、祠、お堂、寺社の豊かな緑、港の風景などは、姪浜固有の宝（魅力資源）です。これらを最大限に活用した景観づくりを地域協働で進めていきましょう。

#### ○地域の貴重な財産である町家を現代的視点で再評価し、積極的に活用しよう

町家は、地域の長い歴史の中で生み出された建築様式です。「寒い」「暗い」「暮らしにくい」ということをよく聞きますが、もともとプライバシーや採光、通風の確保など生活の知恵が詰まった家です。最近では、快適な暮らし方が提案された事例やレストランなどとして再生された事例も多く見ることができます。こうした町家の特性を現代的視点で再評価し、住居や店舗として積極的に活用していきましょう。私たちも町家を保全・再生・活用するための体制づくりを進めていきます。

#### ○新しい建物や駐車場も町並みの向上に貢献するような景観づくりの工夫をしよう

様々な事情で古い町家が解体され、その後はワンルーム形式のマンションやアパートが建ったり、駐車場になったりしています。新しい建物や駐車場も町並みの連続性や色彩、緑化などに配慮し、地域の町並み形成に積極的に参加していきましょう。

#### ○景観づくりを住みやすさ・暮らしやすさや商店街の賑わい創出につなげよう

「何のための景観づくりか？」「だれのための景観づくりか？」ということをよく耳にします。姪浜の景観づくりは外観を整えたり、観光化することが主な目的ではありません。私たちは、姪浜ならではの魅力資源を活かした景観づくりの取り組みにより、「地域の皆さま方が歴史ある姪浜に暮らし、ここで商売することに誇りと愛着を持ち続けてほしい」と考えています。そして、街道や路地を活かした地域コミュニティと会話が生まれる対面型の商店街を再生し、高齢者や子どもたちの姿が溢れるまちにしていきましょう。

#### ○子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりをしよう

姪浜には多くの宝があります。しかし、まちの宝や伝統はそのまま放っておくと錆びたり朽ちたりして、最後には消滅してしまいます。まちの宝や伝統に磨きをかけて次の世代にバトンタッチしていきましょう。また、子どもたちといっしょに姪浜を歩いてまちの姿をともに観察し、姪浜の宝や物語を伝えるなど、子どもたちが姪浜に関心や誇りを持つための入口をつくってあげましょう。

平成26年3月14日


唐津街道姪浜まちづくり協議会、唐津街道姪浜景観づくり委員会




景観づくり計画が示す姪浜の景観づくりの方向性をわかりやすく示し、地域の皆さま方と共有するため、「姪浜景観まちづくり宣言～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～」を策定した。この宣言を踏まえ、地域の関係団体や住民の方々とのさらなる協力と幅広い参加をいただきながら、より詳細な計画を策定するとともに、具体的な景観づくりを実践していくこととしたが、まだ道半ばである。地域の方々を中心とした景観づくりの取り組みはこれからである。

(43)「景観づくりの手引き」の作成

## 姪浜景観づくりの手引き

～住みやすさ・暮らしやすさにつながる景観づくりを目指して～



### 手引きの趣旨

丹波市景観まちづくり推進員は、丹波市景観まちづくり推進員が所在住民の方々から集めて来られた方の声にもお応えしたい。景観づくり委員会を組織して、従来の景観のあり方について検討を進め、平成26年度に景観づくり計画としてまとめた。その実施が期待されること。また、景観づくり委員会が景観づくり委員会を組織して、従来の景観のあり方について検討を進め、平成26年度に景観づくり計画としてまとめた。その実施が期待されること。

丹波市景観まちづくり推進員は、丹波市景観まちづくり推進員が所在住民の方々から集めて来られた方の声にもお応えしたい。景観づくり委員会を組織して、従来の景観のあり方について検討を進め、平成26年度に景観づくり計画としてまとめた。その実施が期待されること。

平成26年10月  
丹波市景観まちづくり推進員・丹波市景観まちづくり委員会

## 景観づくりの手引き (1)3つの景観軸

### 青津街道「旧色町通り」景観

●景観づくりの方針  
①旧色町通りの「歴史的な景観」を維持・発展させる。沿道や周辺の景観を維持・発展させ、景観まちづくりの推進を図る。  
②沿道や周辺の景観を維持・発展させる。沿道や周辺の景観を維持・発展させる。

●景観づくりの具体策

- ① 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
- ② 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
- ③ 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
- ④ 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。

### 旧色町と旧風車街を結ぶ通り

●景観づくりの方針  
①旧色町通りの「歴史的な景観」を維持・発展させる。沿道や周辺の景観を維持・発展させる。  
②沿道や周辺の景観を維持・発展させる。沿道や周辺の景観を維持・発展させる。

●景観づくりの具体策

- ① 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
- ② 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
- ③ 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
- ④ 景観の改善
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。
  - 沿道や周辺の景観を維持・発展させる。

#### 姪浜景観づくりへの想いと提案

心構えや心構え... (Text about the mindset and proposals for Mita-ku landscape creation)

平成26年3月に策定した「姪浜景観づくり計画」の内容を地域の方々に広く知っていただき、活用していただきたいと考え、それをわかりやすく示した「姪浜景観づくりの手引き」を10月に発行した。まちづくり協議会と景観づくり委員会では、地域の集まりでの出前講座やみそ蔵でのパネル展などを開催し、この手引きを活用して地域の方々とともに姪浜ならではの地域特性を活かした景観づくりに取り組んでいくこととしている。



(44) 海を意識したプロジェクト（遊覧船等）



各種イベントの実施に当たっては、常に「姪浜らしさ」にこだわり、チャレンジしてきた。その代表的なものが、「遊覧船で巡る福岡の歴史とまちなみ」であり、従来のまち歩きに加え、博多湾から姪浜周辺を眺め、歴史解説を行うことで、海との関わりが深い姪浜の歴史をより知っていただくことができた。また、「遊覧船&夏休み親子まちなみ探検隊」や「遊覧船から見る福岡のまちなみと花火大会」も実施し、参加した皆さま方に大変喜んでいただいた。しかし、遊覧船の運航が中止となり、新たな取り組みにチャレンジしていく必要がある。

(45) 「TEAM 姪浜ネクスト」の推進



次のステージに向けた姪浜のまちづくりを地域の方々といっしょに考えていくため、「姪浜ネクスト」の推進に向けて動き出した。これは、福岡市が推進する「福岡ネクスト」の姪浜版で、みんなの想いをひとつにして、姪浜の多彩な「よかところ」を活かしたまちづくりの実現に向けて取り組もうとするものである。3回の準備会を行い、28年3月に「姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会」として発足した。姪浜を取り巻く環境の変化に対応していくためには、地域内のいろいろな関係団体と連携して取り組んでいく必要がある。



(46) win-win-win-win 方式による、まち歩きマップの作成・発行



まち歩きマップの改訂に当たり、まちづくり活動の継続性及び「来訪者」「店舗」「姪浜地域」「協議会」の4者の Win-Win-Win-Win の関係構築を目指し、各店舗の協賛を得ながら取り組んでいくこととした。

- ◆来訪者……姪浜の魅力を楽しむことができる。
- ◆店舗……来訪者や地域の方々にお店の情報を伝えることができる。
- ◆姪浜地域……姪浜の魅力を地域内外に発信できる。
- ◆協議会……継続的なまちづくり活動に必要な財源を確保できる。



## (47) ポストみそ蔵としての「まち旅プロジェクト計画」の策定

### 姪浜まち旅プロジェクト計画

- 【まち旅を進めていく背景】……………1
- 【まち旅プロジェクトの実施に向けたモデル的試行】……………3
- 【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】……………6
  - 1 着地型観光まち歩きマップの作成・印刷
  - 2 まちの案内所の整備
- 【姪浜まち旅プロジェクト計画】……………7
  - 1 活かすべき多彩な魅力資源
  - 2 今後考えられるプログラム
  - 3 今後の課題
  - 4 実施に向けて



2016年3月  
鹿津街道経済まちづくり協議会

#### 【まち旅プロジェクト推進のための情報発信ツールの整備】

- 1 着地型観光まち歩きマップの作成・印刷
  - 参加者の反応やワークショップ、関係団体のヒアリング等を踏まえ、着地型観光まち歩きマップを作成・印刷した。
  - ・経路の見どころ紹介（歴史、まちのみ、食、祭り、お薦めのお店等）
  - ・マップ的なまち歩きコース 等



- 2 まちの案内所の整備
  - 平成27年12月に空き店舗を活用して開設した案内所は、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、これを拠点として観光ならではの多彩な魅力資源を活かしたまちづくり活動を実施していく。



- (5) 白うなぎ伝説と名の通り名所通りも龍高ブランド産物（8月）
  - 白うなぎ伝説と名所通りも龍高ブランド産物（8月）
  - 白うなぎ伝説と名所通りも龍高ブランド産物（8月）
  - 白うなぎ伝説と名所通りも龍高ブランド産物（8月）



- 5 -

- (3) 多岐型イベント
  - 歴史教育と桜の名所巡りツアー（春）
  - 歴史教育と紅葉巡りツアー（秋）
  - 番物でもぞろ歩き（春、秋）
  - 遊覧船から見る花火大会（夏）



#### (4) 講座

- 会社講話（住職や官前の講師必城内教員）



#### (5) コンサート

- 灯明コンサート（美富寺、在宮神社）
- 町家コンサート（暮住邸、若狭邸）
- 町家コンサート高松成ブランド科巻（鹿園）



- 9 -

『みそ蔵に代わる地域のシンボルとなる新たな魅力スポットや姪浜らしさにこだわった多彩な事業の発掘・発信』という課題を踏まえ、姪浜のまちづくりの次のステージ「姪浜ネクスト」の一環として、地域内の各団体と協働で、姪浜の多彩なよかところを再発掘・活用する「姪浜まち旅プロジェクト計画」に取り組んできた。これは、姪浜の魅力を地域内外に発信し、身の丈にあった観光スタイル(着地型観光)の定着を目指していくとともに、コミュニティ交流や商店街活性化、地域に対する誇りや愛着の醸成につなげていくものである。



(48) 空き店舗を活用した新案内所の開設



平成27年12月に空き店舗を活用して開設した新案内所を、地域の情報発信、コミュニティの場となるよう運営するとともに、空き店舗活用のモデルとしてPRし、地域内への空き店舗活用の波及を目指していくものである。また、ここを拠点として姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かしたまちづくり活動を実践していくものである。そのため、地域内の関係団体等と協働・連携して「姪浜ネクスト・まちづくり行動委員会」を立ち上げ、具体的なまちづくり実践計画書を策定し、モデル事業を実施していくこととした。

## 進行形！景観まちづくり ～歴史的資源を活かした町並みづくりと賑わいづくり～

唐津街道姪浜まちづくり協議会  
事務局長 大塚政徳

### 姪浜と私

平成 17 年 3 月の福岡県西方沖地震、それが私の人生の大きな転機となりました。私の住む姪浜でも多くの町家や寺社が被害を受けました。被害を受けて改めて気付くというのは残念ですが、しかし、「姪浜にはこんなに素晴らしい歴史的資源が残っていたのか。まだ遅くはない。歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で、これが最後に最後のチャンスだ。」と前向きに考え、地域の関係者に声をかけ、2 年後にまちづくり協議会を立ち上げました。私が 49 歳の時です。

それまで福岡市職員として長く景観行政に携わっていながら、自分が住む地域のことにはあまり関心がありませんでした。それからは今までの 20 年間を取り戻すかのように『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に精力的に活動を続け、地域から感謝状もいただきました。

30 歳代後半までは、職場でも「セブンイレブン（朝 7 時から夜 11 時まで）」と言われるぐらいに働きましたが、今後は、はやりの二刀流ではありませんが、地域への恩返しを込めて、「人生は二刀流、二毛作」をテーマに息長く、そして仲間とともに楽しく地域活動に関わっていきたいと思います。

本稿で紹介するのは、福岡市職員でもある私が景観行政の知識と経験を活かし、業務の枠を超えて地域の景観づくりに取り組んでいる事例です。まちづくり事例としてだけでなく、読者の皆さま方の今後の役所生活の参考にもなれば幸いです。

### 宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、人口 150 万人都市・福岡市の西区の中心的地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいそうな姪浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこにたくさんの「よかところ」を発見することができます。その中には私たちの先人たちから受け継いできたものもあり、また、その上に新たに追加されたもの、生み出されたものもあります。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境の良さや便利さが生み出した新たな風景です。

このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、区画整理によって新しく生まれ変わった姪浜駅周辺と、海辺のマリノアシティの間であって、ぽつんと取り残されたように歴史的な環境が残っている地域があります。ここが私たちの主な活動



地域で、宿場町、商人町、漁師町、寺町の4つの顔を備えた全国的にも珍しいまちです。その中央を東西に走る唐津街道を中心に、数多くの寺社や古い町家、路地などが残り、今でも街道の名残を感じさせる町並みが継承されています（写真1）。



写真1：街道の名残を感じさせる姪浜の町並み

#### **活動のきっかけとねらい、協議会の体制**

姪浜では、平成17年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展等による町家の減少、マンションや駐車場の増加等により、地域固有の歴史的景観が次第に失われつつあります。このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がった私を含む福岡市職員が中心となって、平成19年3月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げました。

当初は地域外のメンバーを中心に十数名のメンバーでスタートしましたが、今では協力会員を含め46名がメンバーとなっており、建築士、コンサルタント、地方史研究家、写真家、大学生、地域住民等の多様な構成が特徴です。年齢的には40～60歳代の男性が中心ですが、なかには、仕事や家庭の都合で一度姪浜を離れた人や定年後に姪浜に戻ってきた人が、われわれの活動に刺激を受けて活動に関わりだした例もあります。こうしたメンバーが「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

ちなみに、立ち上げ当初の中心メンバーであった市役所職員のうち、現在まで続いているのは私だけです（途中から参加しているメンバーには市役所職員が2名います）。歴史や町並みに興味があるだけでは目標を持ち続けるのが難しく、また、何かメリットを感じられないと地域活動は続かないのかな、と思っています。

#### **唐津街道姪浜まちづくり協議会の活動内容**

協議会は平成19年の立ち上げ以降、以下のようにステップアップしながら活動を展

開しています。

#### ◆ 1st ステージ（主に平成 19 年度～）

『地域の魅力の再認識と地域内外への発信』を目標に、「まち歩きマップや瓦版の発行」「まちづくり活動拠点の設置」等による姪浜の見どころ・活動の情報提供や、「景観歴史発掘ガイドツアー」「国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート」「歴史ある寺社での灯明コンサート」等の多彩な町並みイベントを実施しています。

#### ◆ 2nd ステージ（主に平成 22 年度～）

『地域協働のまちづくり計画の策定』を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画や景観づくり計画の策定」を行っています。また、『景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築』を目標に、「町家再生の実践」「旧町名表示板の設置」「姪浜ブランドや姪浜町家の認定」等の具体的な活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えています。

最近では、「子どもまちなみ探検隊」「子ども落書き消し隊（写真 2）」等の次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます。

#### ◆ 3rd ステージ（平成 26 年度～）

『国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築』を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに、平成 25 年末に味噌の製造場としての約 1 世紀の役割を終えて閉店した旧マイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開中です。



写真 2：次代の子どもたちを育てる景観教育

#### **取り組みのポイント～人を活かす、資源を活かす～**

このようにまちづくりの各段階に対応した多彩な活動を、協議会に参加している地域内外の人々の多様なノウハウ・スキルをフルに活用しながら、また関係団体、九州大学、行政、NPO 等と協働で進めています。私も、福岡市職員として培った専門性と企画力、人的ネットワーク等を存分に活用し、会の事務局長として力を発揮しています。特に公



務員が長じるスキルである「各段階の課題に対応して段階的・長期的視点で取り組むこと」「職業・性格・意見の異なる十人十色の会員をまとめること」はまちづくりの現場で活かされています。

また、全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、「何これ！」と思うような地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・景観づくりにつながると考えており、景観行政の経験を存分に発揮できる場面もあります。

### **地域内外からの反応・反響**

こうした活動による地域住民の反応ですが、「地域への誇りや愛着の創出」「活動の広がり」「地域の歴史・文化・暮らしを踏まえた、まちづくりや景観づくりの方向性の共有」「地域資源の保全・活用に向けた意識醸成」「双方向のまちづくりへの展開」につながっています。それを裏付けるものとして、例えば、地域住民から姪浜の魅力を「相撲甚句」や「史跡巡りの歌」にさせていただいたり、また、古民家の再生事例や自主的に景観形成に配慮した建築物等の事例が着実に増えています（写真3）。

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、「姪浜の魅力の全国へのPR」にもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、「身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果」も大いに期待できると考えています。



写真3：自主的に景観に配慮した建築物も

### **自治体職員よ、地域に出よう！スキルを活かそう！**

私はこの活動に業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく公務員冥利に尽きます。

私のような一職員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。読者の皆さま方も仕事や家庭の事情もあると思いますが、それぞれの経験を活かして地域づくりに関

わることで地域力は大きく向上しますし、それを自分自身にフィードバックすることで公務員生活や定年後の生活にも役立つと確信しています。

### **今後の展望**

姪浜では、まちづくりの進展の一方で、いろいろな課題も出てきていますが、課題に取り組むことがまちづくりの楽しさでもあります。

今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域、九州大学、福岡市等と協働で進めていきます。そして、子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりにつなげていきたいと考えています。

### **今後の活動予定**

- ① 景観形成のルール化（景観条例に基づく景観協定の締結等）
- ② 歴史的な環境を活かした景観づくりの実践（町家再生事業等）
- ③ 地域づくり資源（姪浜の歴史や景観的魅力）の物語化
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
- ⑤ 商店街や地域コミュニティ活性化に向けた活動（空き家活用事業等）
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着（多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い）

（月刊「地方自治職員研修」2015年1月号）



## 地域の誇り&まちなみ育てプロジェクト ～姪浜の宝を福岡市民の宝に！～

唐津街道姪浜まちづくり協議会  
事務局長 大塚政徳

### 宝のまち・姪浜～姪浜の歴史と魅力～

姪浜は、福岡市西区の中心的地域です。地下鉄の終点駅なので、名前を聞かれたことがあるかもしれません。ややもすると通り過ぎてしまいそうな姪浜の町並みですが、じっくりと歩いてみると、町並みのそこそこに新旧の多彩な「よかとこ」を発見することができます。

先人たちから受け継いできたものの代表は、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんあります。一方、姪浜駅周辺や海沿いの現代的な商業施設や高層マンションなどは、姪浜の環境のよさや便利さが生みだした新たな風景です。

このように姪浜は新しいものと古いものが共存するまちですが、その魅力が地域住民にほとんど認識されていませんでした。また、平成 17(2005)年の福岡県西方沖地震の影響や都市化の進展による町家の減少、マンションや駐車場の増加などにより、地域固有の歴史的景観が失われつつあります。

このような状況の中で、歴史的な環境を活かしたまちづくりを進める上で今が正念場であると考え、危機感を持って立ち上がったよそ者の建築士が中心となって、平成 19 年 3 月に「唐津街道姪浜まちづくり協議会」を立ち上げました。当初は 10 名程度のメンバーでスタートしましたが、今では協力会員を含め 46 名のメンバーで「ばか者、よそ者、若者」の視点を大切にして、『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、姪浜ならではの多彩な魅力資源を活かした地域協働のまちづくりを精力的に推進しています。

### 継続的で多彩な活動内容

協議会は平成 19 年の立ち上げ以降、ステップアップしながら活動を展開しています。

#### ◆ 1st ステージ（主に平成 19 年度～）

「地域の魅力の再認識と地域内外への発信」を目標に、まち歩きマップや瓦版の発行、まちづくり活動拠点の設置等による姪浜の見どころ・活動の情報提供や、景観歴史発掘ガイドツアー、国の登録有形文化財でのみそ蔵コンサート、歴史ある寺社での灯明コンサートなどの多彩な町並みイベントを実施しています（写真 1）。

#### ◆ 2nd ステージ（主に平成 22 年度～）

「地域協働のまちづくり計画の策定」を目標に、住民参加のワークショップも取り入れながら「元気！姪浜計画や景観づくり計画の策定」を行っています。また、「景観まちづくりの実践と姪浜ブランドの構築」を目標に、町家再生の実践、旧町名表示板の設置、姪浜ブランドや姪浜町家の認定（写真 2）などの活動を展開し、目に見える形でまちづくりの効果を伝えています。

最近では、子どもまちなみ探検隊、子ども落書き消し隊など次の世代を担う子どもたちを対象にした景観教育にも取り組んでいます（写真3）。



写真1 みそ蔵コンサート



写真2 姪浜町家の認定



写真3 子ども落書き消し隊

#### ◆ 3rd ステージ（平成26年度～）

「国の登録文化財のみそ蔵を中心とした姪浜のまちなみの個性の再構築」を目標に、「景観づくりの手引き」を発行し地域への普及活動を行うとともに（写真4）、平成25年末に味噌の製造場としての約1世紀の役割を終えて閉店した旧マイヅル味噌のみそ蔵（姪浜の歴史的・景観的シンボル）の再生・継続的活用に向けた活動を展開中です（写真5）。

このように、まちづくりの各段階に応じた多彩な活動を牽引しているのが、私をはじめとした数名の建築士です。全国どこに行っても同じような町並みの形成が進む中で、地域に埋もれている身近な魅力資源を掘り起こすことが、姪浜ならではのまちづくり・



景観づくりにつながると考えており、建築士としての専門性を存分に発揮できる場面です。「それぞれの地域の歴史や空間特性をしっかりと把握し、ここでしかできないことを形にしていく」、このこだわりが建築に携わる者としての原点であり、私たち建築士の使命だと思います。

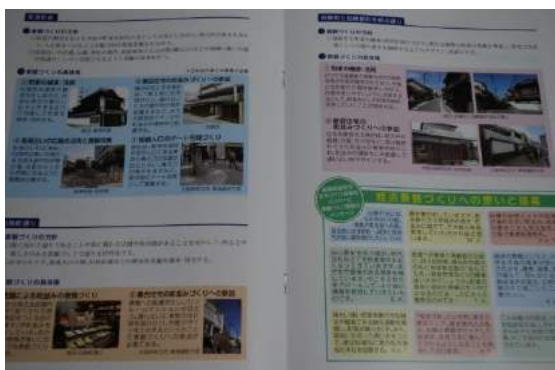


写真4 景観づくりの手引き発行



写真5 登録文化財みそ蔵特別公開

### 地域内外からの反応・反響

こうした活動による地域住民の反応ですが、たとえば、姪浜の魅力を相撲甚句や史跡巡りの歌にさせていただいたり、また、古民家の再生や自主的に景観形成に配慮した建築物の事例が着実に増えています（写真6）。これは、地域への誇りや愛着の創出、地域の歴史・文化・暮らしを踏まえたまちづくりや景観づくりの方向性の共有、地域資源の保全・活用に向けた意識醸成、双方向のまちづくりへの展開につながっている証だと考えています。



写真6 自主的に景観に配慮した町家

一方、対外的な反響ですが、全国的な賞をいくつも受賞することで、姪浜の魅力の全国へのPRにもつながっており、視察や研修のフィールドとして姪浜を選んでいただくことも多くなりました。今後は、身近な魅力資源を活かしたまちづくりの他地域への波及効果も大いに期待できると考えています。

私はこの活動に建築士や福岡市職員の業務として関わっているわけではありませんが、地域の皆さま方に喜んでいただき、地域から感謝状までいただけるのはこの上なく建築士や公務員冥利に尽きます。

私のような一建築士や一公務員が地域に飛び出すだけでも地域は大きく変わります。建築士として様々な形で建築に向き合っている読者の皆さま方も、それぞれの経験を活かして地域づくりに関わることで地域力は大きく向上し、それを自分自身にフィードバックすることで今後の業務や定年後の生活にも役立つと確信しています。

### **今後の展望**

姪浜では、まちづくりの進展の一方で、いろいろな課題も出てきていますが、課題に取り組むことがまちづくりの楽しさでもあります。

今後も『姪浜の宝を福岡市民の宝に！』を目標に、地元の人にとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人にとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、新旧の多彩な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域、九州大学、福岡市等と協働で進めていきます。そして、子どもたちに誇りをもって手渡すことのできる景観づくりにつなげていきたいと考えています。

#### **姪浜流まちづくりに向けて**

- ① 景観形成のルール化（景観条例に基づく景観協定の締結等）
- ② 歴史的な環境を活かした景観づくりの実践（町家再生事業等）
- ③ 地域づくり資源（姪浜の歴史や景観的魅力）の物語化
- ④ こだわりとおもてなしの町並みイベントの継続・充実
- ⑤ 商店街や地域コミュニティ活性化に向けた活動（空き家活用事業等）
- ⑥ 身の丈に合った観光スタイルの定着（多彩な魅力資源の活用、地域の暮らしや人との出会い）

大塚政徳（おおつか まさのり）

1958年福岡県生まれ。熊本大学工学部建築学科卒業。(株)鴻池組を経て、1986年福岡市役所入庁。都市景観行政に長く携わる。

（日本建築士会連合会 会誌「建築士」2015年3月号。

同会主催 第8回まちづくり賞「まちづくり優秀賞」受賞）



## 内陸部のまち・横手市増田と海辺のまち・福岡市姪浜 ～日本海を隔てて 1100 km離れた地域の新たな交流の芽生え～

### 増田の内蔵との出会い

平成 25 年 8 月 30 日、公務員の傍ら、福岡市姪浜で地域活動のリーダーをしている私は秋田県横手市増田にいました。仕事で出張した時の最後の視察地が増田でした。観光物産センター「蔵の駅」で説明を受け、中の蔵を見せていただきましたが、雪国ならではの独特の構法と重厚な造りに圧倒されました。視察はその蔵の見学と 10 分程度の町並み散策だけでしたが、もう少し居残って見てみたいと思い、視察のバスが他のメンバーを乗せ秋田駅に向かう中、私は帰りの飛行機の時間が許す限り、他の蔵を見ることにしました。



### 増田の内蔵

増田は江戸末期～昭和初期に、宮城県と秋田県を結ぶ交通の要所として発展し、葉タバコや蚕糸の生産などで商人文化が栄えました。特に明治時代になると、銀行事業や電力事業などの成功により商業活動が加速度的に活発化しました。当時の商人たちが、成功の証しとして主屋の奥に蔵を造ったのが、「内蔵」の始まりとされています。内蔵は、蔵を豪雪から守るため、全体を「鞘」と呼ばれる上屋建物ですっぽり覆った土蔵ですが、増田の内蔵は主屋の奥に建っており、道路からは見えず、ひっそりと佇んでいるのが特徴です。

また、内蔵が造られるようになった背景として、増田で数回の大火があったそうですが、その後は幸いなことに大火がないことも、多くの内蔵が残っている要因として挙げられます。

### 増田の町並みと内蔵見学

あいにくの小雨の降る天気の中、歴史的な町並みを 1 時間ほどかけてゆっくり散策しました。町割りは間口が 5～7 間（9～12.6m）、奥行きが 50～100 間（90～180m）と極端な短冊型となっており、その上に町家建築が建ち並び、伝統的な町並みが形成されています。道路側からは、2 階の正面に梁首（はりくび）と呼ばれる梁組を見せてい

るのが特徴で、職人技術の粋（すい）を垣間見ることができます。明治前期から戦前にかけて建てられた短冊型の主屋が軒を連ねる景観は、当時の情緒を現在に留めており、主屋・内蔵・外蔵を「トオリ」と呼ばれる土間で結ぶ商家町家の特徴は、この地方独特のものとなっています。平成 25 年内に国の重要伝統的建造物群保存地区の選定が予定されているとのことですが、今後の町並み整備が大いに期待されます。



その後、公開している 5 軒の蔵を見せていただきました。どの蔵も、外観からはその存在が想像もできないほど、立派なものでした。まさに「内蔵」そのものです。そのうちの 3 軒を紹介します。

最初の蔵は、明治 11 年（1878 年）に建築された 100 m<sup>2</sup>以上もある内蔵で、大きな梁とそれを受けるヒバの通し柱が重厚感を演出しています。また、左右対称の幅広の床の間や通風を考えた市松模様の障子が印象的でした。柱と柱の間の壁は、漆喰仕上げですが、石のように磨かれており、左官職人の技術の高さに感嘆せざるを得ませんでした。



2 軒目の蔵は、通りの延焼を防ぐために建物全体が蔵造りの建物となっています。1



階の蔵は、明治元年（1868年）に建てられたもので150㎡以上もあり、現在も生活空間として使われています。また、2階は全体が座敷となっており、防火の願いを込め施された火止唐草の鰻絵が見事です。



3軒目の蔵は、昭和初期に建てられたもので、輝きを放つ黒漆喰の土扉の蛇腹も5段と数も多く、立派な構えを見せています。また、扉を飾る鞘と左官技術は芸術の域に達しており、見事のひとことに尽きます。まだ工作機械がない時代に腕一本で造り上げた大工・左官職人の卓越した技量を堪能できる蔵です。



### 福岡市・姪浜の蔵と町並み

一方、私が暮らし、まちづくり活動を実践している福岡市の姪浜にも、時代時代の状況に応じて様々な使い方をされてきた蔵があります。築180年以上になる江戸時代後期の建物で、戦前までは酒蔵、戦時中は飛行機の部品工場、戦後は味噌の製造・販売、現在はパンの製造・販売及びまちの案内所（地域のまちづくり活動の拠点）として使われ、今でもオーナーが住み続けておられます。また、時にはコンサートや講演会、展示

会等のイベント会場になるなど、地域のシンボリック空間となっています。増田の内蔵とは造られた背景、歴史、構造はかなり異なりますが、「蔵」の持つ不思議な縁を感じました。



さて、ここで、姪浜について少し紹介させていただきます。

姪浜は、古代より大陸からの歴史と文化が息づき、歴史的環境が形成されたまちで、「宿場町」「漁師町」「廻船町」「寺町」の多様な性格を有しています。何も意識しないといつの間にか通り過ぎてしまいそうな地域ですが、じっくりと歩いてみると、日本誕生の神話や神功皇后伝説、奈良時代や鎌倉時代からの歴史を持つ神社やお寺の数々、元寇防塁、小戸から生の松原にかけての白砂青松、江戸時代に栄えた唐津街道の町並み、港の風景などたくさんの「よかところ」を発見することができます。一方、都市化の進展や2005年の福岡県西方沖地震の影響、商店や家の後継者不足等により伝統的な町家が次第に減少し、地域固有の歴史的景観が失われつつあるのが現状です。



このような状況の中で、私たちは『姪浜の宝を福岡市民の宝に!』を目標に、地元の人たちにとっては「住みやすさ・暮らしやすさ」のあるまち、訪れる人たちにとっては「楽しさ」のあるまちの実現を目標として、多様な「よかところ」を姪浜の個性として活かすことができるような「まちづくり・町並み景観づくり」を地域協働で進めています。

そうなんです。私が増田に居残ったのは、何を隠そう、地域づくりや景観づくりの参考にするためだったのです。

### 各家のオーナーとの出会い（増田から学ぶこと）

話を増田に戻しましょう。

私は、どの家も、高齢のオーナーの皆さんが地域や我が家への誇りと愛着を持って説明されている姿に深い感銘を受けました。プライベートな空間はなかなか一般には公開しにくいものですが、それだけ自分の住まい、そして増田の蔵に誇りを持っているのだと思います。それぞれは小さな取り組みですが、これが町ぐるみになることで地域のイベントとしてしっかり定着し、地域の活性化に寄与しているのだと思います。

そして何よりも、案内される皆さんが生き生きとしているではありませんか。まちづくりには「よそ者、ばか者、若者」が必要といわれますが、若い人だけで行うものでもありません。日本全体が超高齢社会に入っている現在では、高齢者が地域に出て、生き生きと生活していくことが極めて重要です。内蔵のまち・増田は自らの蔵を公開することで、皆さんが生き生きと暮らし、来訪者をおもてなしされています。「観光」「地域の活性化」「生き甲斐」「高齢者の社会参加」等々、増田には町並みや内蔵だけでなく、これからの日本の社会の手本となる宝がいっぱいあります。



また、全国の町並み保存地区が後継者不足に悩まされているように、増田にも同じ課題があります。オーナーの皆さんに話を聞くと、多くの方は東京で仕事をし、定年を機会に故郷に帰り、家を守っているという状況のようです。「子どもたちが定年になって増田に帰ってくる。その間は自分たちがこの家を守る。」というような繰り返しで町並みやコミュニティが維持・継承されていくという考え方は、超高齢社会では十分に考えられることです。町並み保存に限らず、定年後に地域づくりに関わっていく姿勢はぜひ見習いたいと思います。

そして、最後のお礼の挨拶の際に、私が福岡市の姪浜から来たことを伝えると、皆さん「こんな田舎まで本当によく来てくださいましたね。感激いたします。」と大変恐縮されていました。九州から秋田に来て、武家屋敷や枝垂れ桜で知られる角館には寄っても横手、そしてさらにその奥の増田にまで町並みや内蔵を見に来る人は少ないと思います。

しかし、私は初めて増田に来て、伝統的な町並み、芸術的な内蔵の数々、生き生きと暮らす高齢者の皆さま方から多くのヒントを得ました。また、「観光客が大挙して押し寄せ、お土産を買って帰る」というような観光スタイルではなく、「頑張っている面白い地域を訪れ、そこで暮らしている方々から多くのことを学ぶ」「その地域でしか食べられない物を食べる」「その地域でしか手に入らないものを買って帰る」というような観光スタイルこそが姪浜でも目指しているものであり、とても参考になりました。こうした地に足のついた取り組みこそが、長期的な地域づくりにつながっていくのだと確信しました。

### 北前船で関係する増田と姪浜

ある蔵で説明を受けている中で、増田は北前船とも関わりがあることを知りました。なぜ、内陸部の増田が北前船と関係あるのか、詳しく話を聞いてみました。

昔、北前船が秋田の港に寄港し様々な物資を降ろしました。増田は雄物川支流の成瀬川と皆瀬川の合流に位置し、秋田の港に着いた物資は、これらの川を使って増田にも運ばれたそうです。当時は食品保存が未熟なため、新鮮な魚は横手のような内陸部には流通が困難でした。しかも秋田は冬が長いので、食品を加工し保存食として冬を越しました。そこで当時の人々は保存食をより美味しく、来客にもてなしたいという思いから、昆布に代表される保存食の加工技術に磨きがかかったということです。

姪浜も江戸時代には廻船業で栄え、五ヶ浦廻船や北前船とも関わりがあります。製塩業や漁業で栄え、藩米を廻送する千石船で賑わったほか、全盛期には江戸、大阪はもちろん東北、北海道にまで船足を伸ばし、江戸幕府や他藩の米、民間の材木、海産物の物流をも担いました。海辺のまち・姪浜と内陸部のまち・増田は 1100 kmも離れており、一見関わりがないように見えますが、「姪浜の塩や海産物が増田で消費されていたかもしれない」「増田の昆布を姪浜の人も食べていたかもしれない」など、何らかの交流があったことを想像すると、とてもわくわくしてきます。

### 今後の交流に向けて（増田の皆さんへのメッセージ）

急遽決断した4時間足らずの増田滞在でしたが、とても有意義な時間でした。「蔵」や「北前船」が取り持つ縁、これは決して偶然ではないと思います。私を増田に引き寄せたもの、それは「増田にはこれからの日本の社会、そして姪浜の地域づくりを考えるヒントがたくさんある」ということを私に伝えたかったのではないのでしょうか。こうし



た縁を大切にし、日本海を隔てて遠く 1100 km も離れた増田と姪浜で「地域づくり」や「町並み」「観光」をテーマに新たな交流が生まれればいいなと感じています。

最後になりますが、丁寧に説明していただいた増田の皆さん、本当にありがとうございました。福岡市の姪浜から厚くお礼申し上げます。これを機会に「日本海を隔てた広域交流」を始めましょう。

(2013 年 第 9 回 JTB 交流文化賞応募作品)

## 熊本地震と私 ～オオクワガタから始まった旅は復興へと向かう旅へ～

### 熊本地震と虫の知らせ

私にとって、平成 28 年 4 月 14 日と 16 日の熊本地震は大きな衝撃だった。私は、平成 12 年の夏から毎年のように訪問している南阿蘇のペンション「ふらいんぐジープ」に、5 月 3 日の宿泊の予約を入れていた。しかし、用件が入り、4 月 14 日の午後 9 時過ぎにキャンセルの電話を入れた。これが虫の知らせだったのだろうか、熊本で震度 7 の大地震（前震）が発生したのは、その約 20 分後である。私が住む福岡市西区でも震度 3 の揺れを観測した。

また、16 日未明に震度 7 の本震が発生し、甚大な被害をもたらした。震度 7 の大地震が短期間に連続して起こることは、我々の想定を超えるものである。翌日のテレビでは、阿蘇大橋が崩落したり、熊本城や阿蘇神社が大きな被害を受けた映像が流される。信じられない光景であった。

私の頭をよぎったのは、ふらいんぐジープやご家族は大丈夫なのかということであった。電話をしたが、つながらなかった。すぐ近くにある住宅団地や別荘地は、地震による土砂災害で大きな被害を受けており、不安が広がった。無事であることを、ただひたすら祈るばかりであった。



熊本地震で大きな被害を受けた熊本城

実は、私は家内といっしょに、熊本地震の少し前の 3 月 20 日～21 日と 4 月 2 日に、熊本に旅行に出かけた。3 月は山鹿の八千代座、さくら湯などに寄った後、阿蘇大橋を渡り、ふらいんぐジープに泊まった。翌日は、阿蘇神社や落ちない巨石で有名なパワースポット「免の石」などを見学した。4 月は熊本城の桜や南阿蘇の一心行の桜などを巡る日帰りのバスツアーで、ここでも阿蘇大橋を渡った。2 回の熊本旅行で阿蘇大橋を合わせて 4 回渡ったことになる。



しかし、阿蘇大橋を渡る時に、私には少し不安がよぎっていた。阿蘇大橋の西側にある山が、野焼きの関係かどうか分からないが、はげ山のようになっており、「土砂崩れが起きたら怖い。」と感じていた。熊本地震でこれが的中し、現実のものとなってしまった。今思えば、これが最初の虫の知らせだったのかもしれない。

また、熊本城、阿蘇神社、免の石など訪問した先々の場所が大きな被害を受け、様変わりしてしまった。大学時代を熊本で過ごした私のショックは計り知れない。そして、建築物の耐震化の仕事にも従事している私にとっては、『大学時代にお世話になった熊本への恩返しをしよう。建築物の耐震化は重要な仕事である。』と私に伝えているようであった。



熊本地震で大きな被害を受けた阿蘇神社

### オオクワガタが取り持つペンションとの縁

さて、ふらいんぐジープの話に戻ろう。私がここを最初に訪問したのは、平成12年の夏である。家内の友人の紹介によるものであり、ふらいんぐジープが実施していたカブトムシツアーに憧れて訪れたものである。当時5歳の長男が昆虫好きで、喜んでくれると思ったからである。

夕食後の午後8時半頃に出発し、クヌギの木や町役場の明かりに集まってくるカブトムシやクワガタを捕まえた。長男や他の子どもたちが喜んだのは言うまでもない。私も童心に戻り、久しぶりのカブトムシツアーを楽しんだ。ペンションに戻ってからは、捕まえたカブトムシやクワガタを選ぶドラフト会議である。オーナーの進行で楽しく進んでいく。子どもたちの歓声がペンション内に響き渡った。

そして、ふらいんぐジープとのつながりを深くしたのは、帰り際にお土産としていただいた菌糸ビンに入ったオオクワガタの幼虫である。翌年の6月にメスの成虫として羽化した。ちょうど同じ時期に、私の住むマンションの知り合いから羽化したばかりのオスの成虫をいただき、ペアとして飼うことになる。

羽化したばかりのオオクワガタも人間で言えばまだ子どもであり、最初の交尾・産卵は翌年の夏であった。予め埋め込んだクヌギの朽ち木から、卵から孵化したばかりの幼虫を取り出した。15匹ほどいただろうか。これを1匹ずつ菌糸ビンに入れて育てる。そして、平成15年の夏に成虫として羽化した。ふらいんぐジープのオーナーから幼虫をもらって3年が経っていた。



羽化したばかりのオオクワガタ（上がメス、下がオス）

それ以来、世代交代を繰り返しながら多くのオオクワガタを育ててきた。平成26年に飼育をやめるまで200匹近くを羽化させた。ふらいんぐジープには毎年のように訪問していたが、カブトムシの季節である夏に行けない年が3回ほどあった。その時は、ペンションに毎年4～5ペアを送り、宿泊の子どもたちへのプレゼントとして使っていた。大変喜んでいただいたそうだ。たった1匹のオオクワガタの幼虫は、多くの成虫を生み出し、子どもたちの喜びにつながり、ペンションとの絆も深めていった。

### ペンション再開とオーナーとの再会

地震後の話に戻ろう。熊本地震発生から40日ほど経った5月27日にペンションのホームページが更新されていた。そこには、ご家族は無事で、7月9日からペンションを再開されるという嬉しいメッセージが掲載されていた。私も安心して、ペンションに電話し、無事であったこと、そしてペンションが再開されることを喜び合った。

それから、私が長男を連れてペンションを訪れたのは、地震から4ヶ月ほど経過した8月15日である。私は建築関係の仕事に従事、長男も建築や都市計画を学ぶ学生であり、ペンションに来る途中、益城町や南阿蘇村の被災現場も見てきた。多くの家屋が倒壊するなど想像以上の被害状況である。道路も至る所で閉鎖されており、なかなかペンションに辿り着かない。よく通り慣れた道に出たと思ったら、そこは何と阿蘇大橋の崩



落現場ではないか。すさまじい光景であった。3月と4月に阿蘇大橋を渡る時に、悪い予感がしていた場所である。迂回してようやくペンションに到着し、ご家族との再会とペンションの再開を喜び合う。本当に無事でよかった。



阿蘇大橋の崩落現場

その日の夕食時や夜のケーキタイム時に、オーナーやご家族の地震での苦労話をお聴きし、考えさせられるものがあった。ご家族は地震後、2週間ほど高千穂に避難し、ペンションに戻ってから車中泊を経験したという。電気も水道も来ない中、一時はペンション経営をやめようかと思った時期もあったらしいが、地震後に今までペンションを訪問した方など約300人から心配と激励のメッセージをいただき、それがペンション再開への後押しになったという。中には、大牟田から毎日、ボランティアとして家の片付けなどの手伝いに来てくれた方もいたそうだ。これもオーナーやご家族の人柄に惹かれてのことであろう。

ふらいんぐジープでは、家具などが倒れたりする被害はあったが、幸いなことに建物の被害は少なかったとのことである。周辺では多くの建物が倒壊したり、土砂災害の被害を受けている中、本当に不幸中の幸いではなかったのだろうか。同じペンション村にあるペンションも比較的被害は少なかったようであるが、電気や水の問題、道路の閉鎖、オーナーの高齢化などもあり、ペンション経営を諦めたところもあると聞いた。

そんな中、約3ヶ月振りの再開である。周りがまだ宿泊客を受け入れる体制が整っていない中での勇気ある決断だったと思う。「夜の明けない朝はない。今できることをしたらいい。」というオーナーの前向きな気持ちがそうさせたのであろう。このペンション村には15軒のペンションがあるが、ふらいんぐジープが最初に再開。その後、少しずつ再開するところが出てきているとのことである。オーナーの思いが次第に周辺に広がっていく。



ペンション「ふらいんぐジープ」のオーナーとの会話

また、オーナーとの会話で得たものがある。オーナーは、「この30年間、ずっと働き続けてきた。今回の3ヶ月間の休みを充電期間として捉え、立ち止まって考えてみた。今までを振り返るいい機会であった。」「自分は現在58歳であり、いつまでペンション経営を続けられるかわからないが、皆さんの思いを受けてできるだけ長く続けていきたい。」と話していた。熊本地震を乗り越えての大変前向きな考え方である。

ペンション開設30周年となる今年の秋には、外壁の塗り替えや屋根の葺き替えなどのリフォームを考えているという。「大地震というピンチ」を「今後のことを考えるチャンス」と捉え、常に前を向いて取り組んでいくことを応援したい。そして、私は「オオクワガタから始まる縁」を「熊本地震からの復興へと向かう縁」に変えて、今まで以上にオーナーやご家族との交流を深めていきたいと思う。

### 復興へと向かう旅

ふらいんぐジープのオーナーは、「被害を受けている今の熊本の状況をしっかり目に焼き付けておいてほしい。」とも話していた。宿泊した翌日は、被害の大きかった阿蘇神社にも行ってみた。建物は大きく倒れたままである。5ヶ月前とは違う光景が広がっていた。胸が痛む。

私は熊本地震後、大学時代の思い出の多い熊本のことを気にかかり、積極的に熊本に出かけている。6月には熊本城、7月には三角西港、8月上旬には天草を訪問。そして、今回は益城町や南阿蘇村、阿蘇市などを訪問した。その中でも、熊本城、阿蘇神社、阿蘇大橋の被害は痛ましい。主要な観光地を結ぶ道路も閉鎖されている。観光客も激減している。

しかし、これを現実と受け止め、未来に向けて、今こそ観光や交流のあり方を考えてみたらどうだろうか。これから長い時間をかけて熊本が復興されていく中で、その過程を見に訪問することも素晴らしい交流ではないだろうか。熊本城の復興には20年かか



ると言われている。これを見届けようではないか。私は現在 58 歳であり、熊本城が復興される頃には 80 歳近くになっている。今後は、熊本城の復興を見届けることを目標に生きていきたいと思う。阿蘇神社の再建にも長い時間を要すると思われるが、その過程も見届けたい。



熊本地震前の熊本城（上）と阿蘇神社（下）

折しも 8 月上旬に、熊本地震前に制作された映画「うつくしいひと」の上映会が福岡市内であった。熊本城、夏目漱石旧居、江津湖、菊池溪谷、草千里、通潤橋といった熊本の名所の地震前の姿が映し出された。こうした名所が、また元の姿に戻るよう願ってやまない。そして、復興の過程を定期的に見に行くことを今後の楽しみにしていきたい。

また、建築や耐震の仕事に加え、精力的に地域のまちづくり活動を推進してきた私にも、熊本の復興に何か役立てることがあるかもしれない。定年を前にして、新たな生きがいと楽しみが増えたような気がする。ふらいんぐジープのオーナーと同じように、私も前向きに考えることにした。

「南阿蘇のペンション」「オオクワガタ」「熊本地震」というキーワードは、一見すると全くつながらない。しかし、私の中では切っても切れない縁として一貫してつながっている。そして、それは「熊本地震からの復興と観光交流」というテーマにつながっていくことになるのであろう。今後も大地震から復興していく熊本の姿と、南阿蘇のペンション「ふらいんぐジープ」との交流を楽しみに、確実に熊本に出かける機会が増えそうである。私の復興へと向かう旅も始まる。

(2016年 第12回 JTB 交流文化賞応募作品)